



平成28年度

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)

杜の都女性研究者 エンパワーメント推進事業 年次報告書



東北大学男女共同参画推進センター

Tohoku University Center for Gender Equality Promotion



東北大学

目 次

ご挨拶	01
I 社の都女性研究者エンパワーメント推進事業の概要	
1. 事業の目標と行動計画	03
2. 東北大学における男女共同参画の現状	04
II 社の都女性研究者エンパワーメント推進事業「6つの取組」	
1. 【推進体制の確立】	
1-1 エンパワーメントタスクフォース(ETF)の設置	07
1-2 アドバイザリーボードの設置	07
2. 【女性研究者の採用と上位職への積極的登用へ向けた取組】	
2-1 国立大学法人東北大学男女共同参画アドバイザリーボード委員会会議	08
2-2 平成28年度女性研究者エンパワーメントタスクフォース(ETF)会議	09
3. 【グローバル化に対応したダイバーシティ研究環境整備のための取組】	
3-1 「社の都女性研究者エンパワーメント推進事業」による女性研究者支援制度	10
3-2 TUMUGホームページリニューアル・英語版開設	11
3-3 男女共同参画推進センター内図書整備・公開	11
4. 【女性研究者の研究力及びリーダー育成の取組】	
特任教員（リサーチ・アドミニストレーター（URA））	12
5. 【次世代の女性研究者育成の取組】	
5-1 セミナー 「研究職の魅力を伝える」	14
5-2 セミナー 研究者ってなに?「留学・海外滞在」編	15
6. 【ダイバーシティ研究環境整備に関する意識醸成と広報活動】	
6-1 キックオフシンポジウム 第1回管理職セミナー	16
6-2 第13回東北大学男女共同参画シンポジウム「男性性を問う」	18
6-3 金属材料研究所男女共同参画セミナー「女性研究者に応援の気持ちを込めて」	20
6-4 電気通信研究所「ナノ・バイオおよびナノ・有機融合分野で活躍する女性達」	21

6-5	多元物質科学研究所第5回男女共同参画推進セミナー ～女性科学者が語る研究・人生の楽しみ方～	22
6-6	他大学訪問調査 (岡山大学、名古屋大学、長崎大学、新潟大学、九州大学、日本IBM(株)、早稲田大学、京都大学、 理化学研究所)	23
6-7	アンケート結果報告	24
	①青葉山地区第3保育所設置に係るアンケート	
	②「研究環境に関するアンケート」の実施と報告書の発行	

III 参考資料

1.	平成28年度杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業資料	34
2.	平成28年度杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業リーフレット	36
3.	学生向けリーフレット「研究者をめざして」	37
4.	東北大学男女共同参画推進センターリーフレット	37
5.	東北大学男女共同参画推進センター [TUMUG] ニュースレター vol.1～8	38
6.	東北大学女子学生入学百周年記念事業報告書	39
7.	東北大学サイエンス・エンジェル活動報告2015、2016	39
8.	TUMUG支援事業一覧	40
9.	サイエンス・エンジェルのご案内	40
10.	学生・職員相談所利用案内	41
11.	男女共同参画推進基金	41

ご挨拶



東北大学 総長
里見 進

東北大学は平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）に採択されました。この事業は研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、女性研究者のライフイベントとワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や、女性研究者の研究力向上のための取組、および上位職への積極採用に向けた取組を支援するものです。

これまで、東北大学では文部科学省の女性研究者支援事業による支援や独自経費（総長裁量経費「男女共同参画・女性研究者支援事業」）によって女性研究者に焦点を当てた取組を行ってきました。それにより、女性教員比率は向上していますが、国立大学全体の平均（平成27年度15.4%）と比べるとまだ低い状況です。

このような現状を踏まえ、第三期中期目標計画においては、明確に女性教員比率が19%となることを目指すという数値目標を掲げています。目標達成に向けて、採用に係る取組を進めると同時に、採用した女性教員が在任中に業績を重ねることで、大学に定着し、上位職へ昇進できるよう女性研究者の研究力向上に向けた取組を実施したいと考えています。本事業への取組で、女性研究者が途切れることなくキャリアアップを図ることができ、多様な視点を持った研究者がともに研究活動を行うことができる環境が構築されることを期待します。



Ⅰ 社の都女性研究者エンパワーメント推進事業の概要

1. 事業の目標と行動計画

以下の5つの目標を達成するために行動計画に従って、ダイバーシティ研究環境を実現するための取組を進めていきます。

本事業の目標

- 目標 1 女性教員在籍率19%を目指す。
- 目標 2 新規採用教員に占める女性比率30%を目指す。
- 目標 3 教授・准教授の女性比率10%を目指す。
- 目標 4 役員等での女性比率10%を目指す。
- 目標 5 女子学生の研究者志望への意識向上および男性も含めた人的ダイバーシティへの意識醸成を行う。

事業期間中の目標値

※1 上位職…教授・准教授相当
※2 役員等…総長特別補佐を含む

	H28	H29	H30	H31	H32	H33
在籍教員における女性比率	12%	13%	14.3%	15%	17%	19%
新規採用における女性比率	16%	18%	20%	23%	26%	30%
上位職 ^{※1} における女性比率	7.5%	8%	8.5%	9%	9.5%	10%
役員等 ^{※2} における女性比率	3.8%	5.7%	5.7%	7.5%	9.4%	10%

行動計画

	H28	H29	H30	H31	H32	H33
ダイバーシティ研究環境整備のための取組	施策の検討 アドバイザー ボード設置	支援策の実施 定期的な評価活動・取組への反映				評価・改善
	施策の検討	学生・大学院生の育成支援の実施 定期的な調査・分析と施策への反映				評価・改善
女性研究者の研究力向上のための取組	URA配置	女性研究者のためのURAによる研究支援				評価・改善
	施策の検討	研究力育成・向上のためのセミナー等開催 研究業績の顕彰および研究費支援				
女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組	施策の検討	採用・昇任促進施策の実施				評価・改善
		意識啓発活動 メンタリング支援				

第三期中期目標・中期計画（抜粋）

男女共同・協働の実現

No. 60 次世代の学生の教育を担う機関として男女共同・協働を実現するため、「東北大学における男女共同参画推進のための行動指針」に基づく総合的・計画的な取組を推進し、第3期中期目標期間中に、女性教員比率を19%に引き上げることを目指した採用等の取組及び管理職等（課長補佐級以上）の女性職員比率を15%に引き上げることを目指した育成等の取組を強化する。

女性活躍推進法に基づく

一般事業主行動計画（抜粋）

目標 管理職等（課長補佐級以上）の女性職員比率を15%へ引き上げることを目指す。

《取組1》 女性のキャリア形成の阻害の要因の一つである労働環境の改善を実施する。

《取組2》 女性教員を対象として管理職育成を目的としたキャリア研修を実施する。

2. 東北大学における男女共同参画の現状

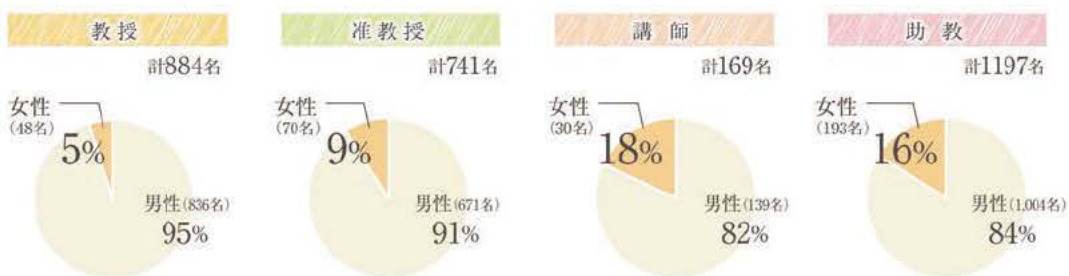
東北大学における在籍教員・学生の女性比率

東北大学では文部科学省の女性研究者支援事業による支援や独自経費（総長裁量経費「男女共同参画・女性研究者支援事業」）による女性研究者に焦点を当てた取組により、女性教員数は着実に増加していますが、国立大学全体の平均（平成27年度15.4%）から見ると遅れをとっている現状にあります。



東北大学における男女構成比

■ 男性 ■ 女性 (平成28年5月1日現在)



これまでの実績

社の都女性科学者ハードリング支援事業

平成18年度～平成20年度…女性研究者支援モデル育成事業

女性科学者のキャリアパスにおける
障害（ハードル）を乗り越えるための取組

- 育児介護支援プログラム
- 環境整備プログラム
- 次世代支援プログラム



東北大学学内保育園:星の子保育園

社の都ジャンプアップ事業for2013

平成21年度～平成25年度…女性研究者養成システム改革加速事業

自然科学系の女性研究者を採用・育成するための取組

- 世界トップクラス研究リーダー養成プログラム
- 新ネットワーク創生プログラム
- 研究スタイル確立支援プログラム

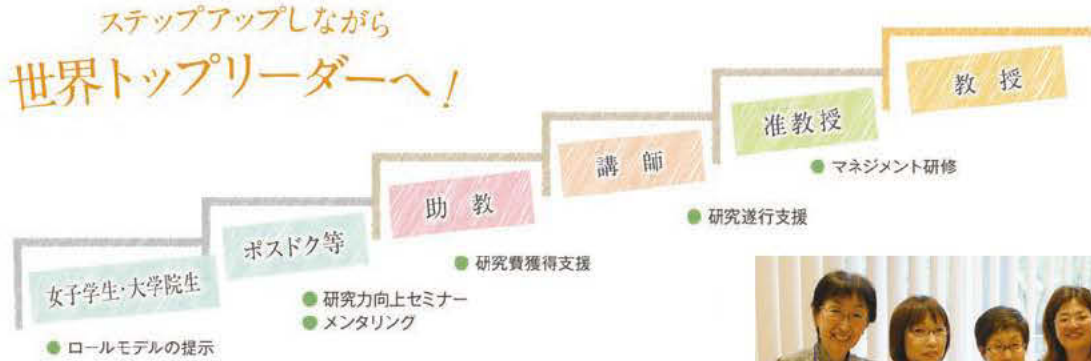
平成27年度までの支援実績

研究支援要員制度	のべ65名
ベビーシッター利用料等補助	のべ158名
川内けやき保育園	のべ324名
星の子保育園	のべ143名
星の子ルーム(病後児保育)	のべ4,845名

注:平成18年度から。ただし川内けやき保育園は平成17年度、星の子保育園は平成22年度、星の子ルームは平成15年度から。

推進事業の紹介

「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」では、女性研究者のキャリア段階にあった以下の取組を行い、ダイバーシティ研究環境実現の達成を目指します。



「推進します！！ 東北大エンパワーメント」

東北大学における男女共同参画のあゆみ

- 1913年 我が国の大学として初めて女性に門戸開放。
- 2001年 東北大学男女共同参画委員会設置。
- 2002年 男女共同参画推進のための東北大学宣言。
- 2003年
 - ・21世紀COEプログラム「男女共同参画社会の法と政策」採択（実施期間5年）。
 - ・男女共同参画奨励賞（通称：澤柳賞）創設。
 - ・各部局に「男女共同参画ワーキンググループ」設置。
- 2005年 学内保育所「川内けやき保育園」開設。
- 2006年 「杜の都女性科学者ハードリング支援事業」採択。
- 2008年
 - ・グローバルCOE「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」が採択（実施期間：5年）。
 - ・「育児のための短時間勤務制度」、「育児休業等の取得による任期の延長」制度化。
- 2009年
 - ・2番目の学内保育所「星の子保育園」設置（星陵地区）。
 - ・「杜の都ジャンプアップ事業for2013」採択。
- 2013年
 - ・東北大学女子学生入学100周年記念事業。
 - ・東北大学における男女共同参画推進のための行動指針。
- 2014年
 - ・東北大学男女共同参画推進センター開設。
- 2016年
 - ・「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」採択。



黒田チカ 坂田らく 丹下ウメ
日本初の「女子学生」



植木男女共同参画推進センター長（右から2番目）
および副センター長

1-1 エンパワメントタスクフォース (ETF) の設置

平成28年度女性研究者エンパワメントタスクフォース (ETF) 名簿

ETFは、大隅典子総長特別補佐（男女共同参画担当）が座長を務め、男女共同参画推進センター副センター長、協力教員、センター専任教員、総務企画部長、人事企画部長等によって構成されています。

部局	役職	氏名
男女共同参画推進センター 医学系研究科	副センター長 教授	大隅 典子
男女共同参画推進センター 金属材料研究所	副センター長 教授	米永 一郎
男女共同参画推進センター 医工学研究科	副センター長 教授	田中 真美
文学研究科	教授	才田いずみ
理学研究科	教授	中村美千彦
工学研究科	教授	川崎 亮
農学研究科	教授	牧野 周
情報科学研究科	教授	村上 斉
多元物質科学研究所	教授	永次 史
男女共同参画推進センター	特任講師（主任URA）	藤村 維子
男女共同参画推進センター	助教	保坂 雅子
総務企画部	部長	齋藤 仁
人事企画部	部長	佐藤 誠

※太枠は座長

1-2 アドバイザリーボードの設置

他大学の男女共同参画担当理事や女性研究者支援の専門家等の外部有識者に、アドバイザリーボード委員となっていただいています。

外部アドバイザリーボードメンバー

(50音順)

- 梅田 恵氏 日本IBM株式会社 人事広報担当部長兼ダイバーシティ担当
 鹿嶋 敬氏 一般財団法人女性労働協会 会長兼専務理事
 佐藤 恭子氏 公益社団法人日本経済研究センター 研究本部長
 束村 博子氏 名古屋大学 副理事（男女共同参画担当）
 前田 瑞夫氏 理化学研究所 主任研究員
 宗片恵美子氏 特定非営利活動法人イコールネット仙台 代表理事
 宗近美佐子氏 内閣府 男女共同参画局推進課課長補佐 仕事と生活の調和推進室
 山田 秀雄氏 山田・尾崎法律事務所 弁護士

2. 女性研究者の採用と上位職への積極的登用へ 向けた取組

2-1 国立大学法人東北大学男女共同参画アドバイザーリーボード委員会会議

第1回

1.日 時：平成29年2月20日（月）10:30～12:30

2.場 所：東北大学東京分室 会議室

3.出席者：○アドバイザーリーボード委員

梅田 恵氏（日本IBM株式会社 人事広報担当部長兼ダイバーシティ担当）

鹿嶋 敬氏（一般財団法人女性労働協会 会長兼専務理事）

佐藤 恭子氏（公益社団法人 日本経済研究センター 研究本部長）

束村 博子氏（名古屋大学副理事（男女共同参画担当））

前田 瑞夫氏（理化学研究所 主任研究員）

宗片 恵美子氏（特定非営利活動法人 イコールネット仙台代表理事）

宗近 美佐子氏（内閣府 男女共同参画局推進課課長補佐 仕事と生活の調和推進室）

山田 秀雄氏（山田・尾崎法律事務所 弁護士）

○本学関係者

植木 俊哉（理事（総務・国際展開・事務統括担当）男女共同参画推進センター長）

大隅 典子（男女共同参画推進センター副センター長 医学系研究科教授）

米永 一郎（男女共同参画推進センター副センター長 金属材料研究所教授）

田中 真美（男女共同参画推進センター副センター長 医工学研究科教授）

藤村 維子（男女共同参画推進センター特任講師（主任リサーチ・アドミニストレータ））

齋藤 仁（総務企画部長）

高木 雅弘（総務企画部総務課長）

木村 賢一（総務企画部総務課課長補佐）

村上 亜矢子（総務企画部総務課専門職員）

- 4.議題：(1)東北大学「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」（H28～H33）の概要について
(2)東北大学「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」の進捗状況および今後の事業予定について
(3)その他

2-2 平成28年度女性研究者エンパワーメントタスクフォース（ETF）会議

第1回

- 1.日 時：平成28年10月31日（月）16:00～17:10
- 2.場 所：東北大学片平キャンパス 本部本館 第一会議室
- 3.出席者：大隅副センター長、米永副センター長、田中副センター長、中村教授（理）、川崎教授（工）、牧野教授（農）、村上教授（情報）、永次教授（多元）、保坂助教（男女センター）、齋藤部長（総務企画部）、佐藤部長（人事企画部）
- 4.議 題：(1)ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」の概要および女性研究者エンパワーメントタスクフォース（ETF）の目的・役割について
(2)他大学における取組の状況について

第2回

- 1.日 時：平成28年12月12日（月）10:00～11:40
- 2.場 所：東北大学片平キャンパス 北門会館2階「エスパス」
- 3.出席者：大隅副センター長、才田教授（文）、中村教授（理）、川崎教授（工）、牧野教授（農）、村上教授（情報）、永次教授（多元）、保坂助教（男女センター）、齋藤部長（総務企画部）
- 4.議 題：(1)各委員からの報告について
(2)女性研究者採用等に関する各大学の取り組みについて
(3)キックオフシンポジウム・第1回管理職セミナーの開催について
(4)女性研究者エンパワーメント推進事業の実施に向けた今後の施策について

第3回

- 1.日 時：平成29年1月17日（火）18:00～19:20
- 2.場 所：東北大学片平キャンパス 本部本館 第二会議室
- 3.出席者：大隅副センター長、米永副センター長、田中副センター長、才田教授（文）、中村教授（理）、川崎教授（工）、牧野教授（農）、永次教授（多元）、藤村主任URA（男女センター）、齋藤部長（総務企画部）、佐藤部長（人事企画部）
- 4.議 題：(1)キックオフシンポジウム・第1回管理職セミナーのアンケート結果について
(2)女性研究者エンパワーメント推進事業の実施に向けた施策（案）について

3. グローバル化に対応した、ダイバーシティ研究環境整備のための取組

3-1 「社の都女性研究者エンパワーメント推進事業」による女性研究者支援制度

女性研究者の研究力向上を推進するとともに、女性教員の在職比率並びに上位職比率の向上を目指すことを目的とし、研究活動の支援やセミナー等の開催等を行うことにより、女性研究者の研究能力を強化する活動を行いました。

その一環として、4種のプログラムを実施しました。

本事業の趣旨・目的

本学は男女共同参画の推進に努めておりますが、平成28年5月現在においても、女性教員・研究者の比率が13.5%、教授職に至っては5.4%と全国的に見ても非常に低い水準にあり、その比率増加が求められています。本事業では、出産、育児、介護等のライフイベントにおいても研究時間を確保し、研究を継続できるよう、その両立を図るための支援を行っています。また、同時に、女性研究者が我が国や世界において研究リーダーとなって活躍するためのスキルアップのための支援を行っています。

本事業は支援することだけが目的ではなく、制度を利用した研究者がこれらの支援により、研究者としてステップアップし、同輩及び次世代のモデルとなること、また男女共同参画及び女性研究者支援事業に積極的に参加されることを期待するものです。

平成28年度 募集実施プログラム一覧

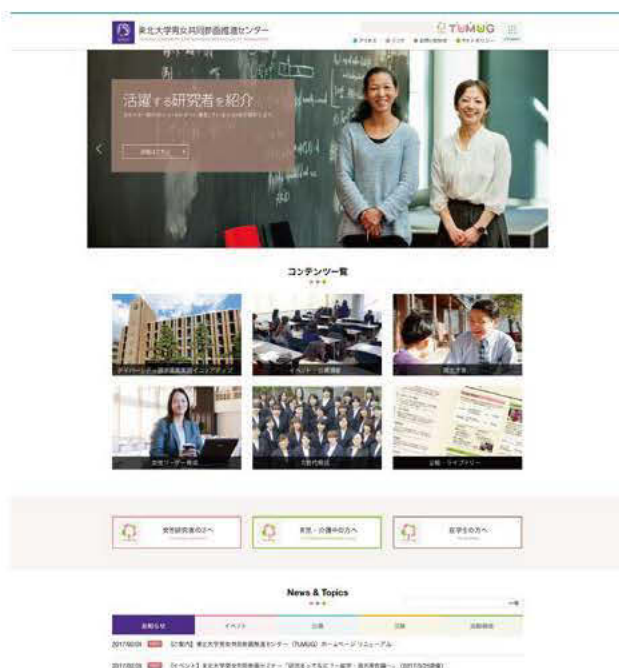
	項目	プログラム名	内容	対象者	平成28年度採択数
1	両立支援	研究支援要員(C型)	博士後期課程院生をリサーチ・アシスタント(RA)ないしはアドミニストレイティブ・アシスタント(AA)として雇用するために必要な人件費を補助	出産・育児・介護等を行う女性教員	4人
2	女性リーダー育成	「科学研究費助成事業」フォローアップ	科学研究費助成事業に応募したものの不採択となった研究課題について、当該研究費の一部を支援	女性の教員(准教授、講師、助教、助手)およびポスドク(教育研究支援者など)	14人
3	女性リーダー育成	国際学術論文作成のための英文校閲費用補助	国際学術誌への論文投稿のための英文校閲費用を補助	女性教員(准教授、講師、助教、助手)	第1回 11人 第2回 11人
4	上位職への積極的登用	ダイバーシティ研究環境実現のための部局等による取組支援プログラム	部局がファカルティ・テイペロップメント、セミナー、ワークショップ等の取組支援を実施するにあたって、必要となる講師旅費、諸謝金等を支援する	全部局	3件

3-2 TUMUGホームページリニューアル・英語版開設

東北大学男女共同参画推進センター（TUMUG）の認知度を高め、見やすく、探しやすいサイトを目指し、ホームページをリニューアルしました。

● 主な変更点

- 1 国際対応のため英文ミラーサイトを作成し、スマートフォンでも見やすいレスポンスwebデザイン対応にしました。
- 2 最新の有益情報をまとめて入手してもらえるよう「イベント・公募情報」と、ターゲット別メニュー「女性研究者の方へ」「育児・介護中の方へ」「在学生の方へ」を新たに設置しました。
- 3 「東北大学男女共同参画推進センター（TUMUG）」ホームページを、新ドメイン（www.tumug.tohoku.ac.jp）に変更しました。



3-3 男女共同参画推進センター内図書整備・公開

男女共同参画推進センターは、東北大学グローバルCOEプログラム「グローバル時代の男女協同参画と多文化共生」（2008-2013）および21世紀COEプログラム「男女共同参画時代の法と政策—ジェンダー法・政策・研究センター」（2003-2008）により購入した図書約8,000冊を所蔵しています。文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）採択を機に、図書数十冊を追加購入し、蔵書を充実させました。更に、1月からは「男女共同参画推進センター図書利用規則」及び「利用案内」を作成し、図書館資料として学内外に公開しています。



4. 女性研究者の研究力及びリーダー育成の取組

特任教員（リサーチ・アドミニストレーター（URA））

東北大学男女共同参画推進センター特任教員（リサーチ・アドミニストレーター（URA））
公募要領

平成28年9月15日

募集人員	1名
職種	特任准教授（運営）（上席リサーチ・アドミニストレーター（上席URA））または 特任講師（運営）（主任リサーチ・アドミニストレーター（主任URA））
勤務場所	国立大学法人東北大学男女共同参画推進センター
勤務内容	<p>本学は、文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に採択されました。（http://www.morihime.tohoku.ac.jp/blog/2016/07/29/4961/）</p> <p>本事業においては、女性研究者の研究力向上を推進するとともに、女性教員の在職比率並びに上位職比率の向上を目指すことを目的として、研究活動支援やセミナー等の開催等を行うことで、女性研究者の研究力を強化する活動を行います。これらの活動を先導して実施し、女性研究者支援に特化したURAを募集します。</p> <p>本学のリサーチ・アドミニストレーター（URA）の業務・活動等の詳細については、東北大学研究推進本部URAセンターのWebページも参照してください。（http://ura.tohoku.ac.jp/）</p> <p>①研究力養成支援に関すること。 ②研究費獲得支援に関すること。 ③研究プロジェクト遂行支援に関すること。 ④その他、女性研究者支援に関すること。</p> <p>※採用された場合、リサーチ・アドミニストレーターの業務に専従していただく必要があります。（例えば、科学研究費の研究代表者等として研究活動を行うこと、学生に対する講義等の教育活動を行うことは出来ません。）</p>
資格等	<ul style="list-style-type: none"> 博士の学位を有する者、またはそれと同等の能力を有する者。（専門分野は問わない） 業務遂行に必要で職務に相応しい文書力、語学力、交渉力、プレゼンテーション能力等を有する者。 業務遂行に必要な調整能力、協調性等を有する者。 上記の女性活躍推進にかかる企画・運營業務に従事した経験を有する者、または今後従事する意欲のある者。なお、英語によるコミュニケーション能力を有することが望ましい。 女性研究者支援に特化した業務に専従専念し、意欲のある者。
採用時期	平成28年12月1日以降（相談に応じる）
任期	採用日から平成29年3月31日 ※勤務成績・実績の評価により最大3年まで更新する場合があります。
勤務形態	常勤 国立大学法人東北大学特定有期雇用職員就業規則（平成21年規第26号）の定めに従います。
給与・手当等	国立大学法人東北大学職員給与規程（平成16年規第55号）に基づき年俸制を適用します。 文部科学省共済組合、雇用保険、労災保険等に加入
勤務時間	①勤務時間：始業8時30分、終業17時15分 ②休日：土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日） ③年次有給休暇、病気休暇、特別休暇（リフレッシュ休暇等）
応募方法	<p>以下の書類を【問合せ先】宛に郵送にて提出してください。 なお、応募書類は封筒に「男女共同参画推進センター URA応募書類在中」と朱書きし、書留または配達記録の記録の残る方法で送付してください。</p> <p>①履歴書（要写真貼付、電子メールアドレスを明記） ②職務経歴書（男女共同参画に関する職務経歴がある場合は、その業務内容も記載ください。） ③研究実績及び研究業績一覧 ④本学で女性研究者支援に特化したリサーチ・アドミニストレーター業務に携わる抱負（1,000字程度） ⑤語学力を示す書類（在外経験やTOEIC等の点数を証明できる書類の写し） ⑥応募者を照会できる者2名の氏名、連絡先住所、電話番号、メールアドレス</p>

応募締切	平成28年10月31日（月）必着										
選考方法	書類審査後、面接審査を行います。面接の詳細については対象者に連絡します。 (面接を受けて頂く際の旅費等は自己負担となります。)										
問合せ先	〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1 国立大学法人東北大学総務企画部総務課 担当：村上 TEL：022-217-4811 E-mail：gen-som@grp.tohoku.ac.jp ※お問い合わせはメールにてお願いします。										
その他	<p>・東北大学は、リサーチ・アドミニストレーターに以下4つの職種とそれに応じた呼称を設けております。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>呼称</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特任教授（運営）</td> <td>首席リサーチ・アドミニストレーターまたは首席URA</td> </tr> <tr> <td>特任准教授（運営）</td> <td>上席リサーチ・アドミニストレーターまたは上席URA</td> </tr> <tr> <td>特任講師（運営）</td> <td>主任リサーチ・アドミニストレーターまたは主任URA</td> </tr> <tr> <td>特任助教（運営）</td> <td>リサーチ・アドミニストレーターまたはURA</td> </tr> </tbody> </table> <p>・東北大学は、男女共同参画を積極的に推進しています。 ・子育て支援の詳細等、男女共同参画の取り組みについては下記URLをご覧ください。</p> <p>男女共同参画推進センターページ http://www.morihime.tohoku.ac.jp/ 男女共同参画委員会ページ http://www.bureau.tohoku.ac.jp/danjyo/</p> <p>・応募された書類は選考以外に使用しません。また、応募された書類の返却はいたしません。</p>	職種	呼称	特任教授（運営）	首席リサーチ・アドミニストレーターまたは首席URA	特任准教授（運営）	上席リサーチ・アドミニストレーターまたは上席URA	特任講師（運営）	主任リサーチ・アドミニストレーターまたは主任URA	特任助教（運営）	リサーチ・アドミニストレーターまたはURA
職種	呼称										
特任教授（運営）	首席リサーチ・アドミニストレーターまたは首席URA										
特任准教授（運営）	上席リサーチ・アドミニストレーターまたは上席URA										
特任講師（運営）	主任リサーチ・アドミニストレーターまたは主任URA										
特任助教（運営）	リサーチ・アドミニストレーターまたはURA										

特任教員（URA）新規採用（平成28年12月16日付）

選考経緯

1. 一次審査（書類審査）
2. 二次審査（面接）

選考結果

採用者：藤村 維子

職名：特任講師（主任URA）

女性研究者支援に特化したURAが 着任しました

女性研究者の研究力強化を目的として、研究費獲得支援や共同研究のための情報収集・連絡調整を行うURAとして藤村維子特任講師が着任しました。



5. 次世代の女性研究者育成の取組

5-1 セミナー 「研究職の魅力伝える」

実施内容

日時：平成29年2月24日（金）13:30～16:00

会場：片平キャンパス 生命科学研究科プロジェクト総合研究棟会議室A

対象：本学女子学生・大学院生

参加人数：39名

概要：女子学生を対象に、女性研究者から研究内容や職業生活について話を聞くセミナー「研究職の魅力伝える」を実施しました。副センター長である大隅典子氏（医学系研究科 教授）から開会の挨拶があり、本学卒業生である安西 眸氏（東北大学 学際科学フロンティア研究所 助教）、大野直子氏（北海道大学 大学院工学研究院 材料科学部門 助教）、戸谷 梓氏（中外製薬株式会社 製薬研究部（合成技術担当） 研究員）の3名が、研究職の実際について講演を行いました。また、東北大学サイエンス・エンジェルの活動について、近藤 なな氏（生命科学研究科）、滝沢 翠里氏（生命科学研究科）、秋山 佳央氏（生命科学研究科）より紹介がありました。休憩後、講師を囲んだ3つのグループに分かれて、研究職の実際について話し合うグループトークを行いました。

文部科学省 科学技術人材育成補助事業ダイバーシティ研究開発拠点（片平）（特次期）
「社会の女性研究者センター」の開催事業（H29.1.13）

セミナー 研究職の魅力を伝える

女子学生の皆さん、女性研究者から研究内容や職業生活について話を聞いてみませんか。
本学卒業生3名が、研究職の実際について語ります。

<p>講演</p> <p>13:30～13:55 14:00～14:25 14:30～15:05</p> <p>13:30～13:55 機械系から病気を 探る・治療する 安西 眸 東北大学 学際科学フロンティア研究所 助教</p> <p>14:00～14:25 自立した女性の条件 —研究で習得する —国際的活躍力と国際性— 大野 直子 北海道大学 大学院工学研究院 材料科学部門 助教</p> <p>14:30～15:05 企業で研究するとは？ —大学との違い、 —オンラインプランの活用— 戸谷 梓 中外製薬株式会社 製薬研究部（合成技術担当） 研究員</p>	<p>グループトーク</p> <p>15:15～15:45</p> <p>講師を囲んで、研究職の 実際について話し合おう。</p> <p>東北大学 サイエンス・エンジェル について</p> <p>15:45～15:55</p> <p>5名が東北大学サイエンス・ エンジェル会の活動について 紹介します。</p>
---	--

平成29年 2月24日 金 13:30～16:00

定員 50名
入場無料
東北大学片平自由

東北大学片平キャンパス
生命科学研究科プロジェクト
総合研究棟会議室A

対象 本学女子学生・大学院生

主催 東北大学
東北大学男女共同参画推進センター
Tohoku University Center for Gender Equality Promotion

TEL 022-217-6092
E-mail: center@tohoku.ac.jp
URL: www.tohoku.ac.jp

HP Facebook



6. ダイバーシティ研究環境整備に関する意識醸成と 広報活動

6-1 キックオフシンポジウム 第1回管理職セミナー

実施内容

日時：平成28年12月19日（月）15:00～17:00

会場：東北大学片平キャンパス 知の館3階 Lectere Theater

対象：学内限定とし、部局において指導的地位にある者 各1名

- ・部局長（都合がつかない場合、代理として副部局長）
- ・事務(部)長

参加人数：60名

プログラム：

15:00 [開会挨拶] 総長/里見進

15:05 [来賓挨拶] 文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課 人材政策推進室 室長 唐沢 裕之氏

15:20 [概要説明] 「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業（H28～H33）」について
総長特別補佐（男女共同参画担当）・男女共同参画推進センター副センター長・
医学系研究科教授/大隅典子

15:35 [取組紹介] TUMUG 支援事業採択者によるポスター発表（常設）

15:45 [講演1] 「大学を活性化するための戦略としての女性活躍促進」
名古屋大学副理事・男女共同参画室長・生命農学研究科教授/東村博子氏

16:15 [講演2] 「Why Diversity一個人と組織を強くするための戦略」
日本IBM株式会社人事ダイバーシティ企画担当部長/梅田恵氏

16:45 [質疑応答]

17:00 [閉会挨拶] 理事（総務・国際展開・事務統括担当）・男女共同参画推進センター長/植木俊哉

概要：平成28年12月19日（月）、知の館3階Lectere Theaterにて「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」採択を記念した「キックオフシンポジウム・第1回管理職セミナー」を開催しました。当日は、唐沢 裕之氏（文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課 人材政策推進室 室長）が来賓としてご挨拶され、「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」について大隅典子教授が概要を説明しました。続いて名古屋大学 副理事（男女共同参画担当）の東村博子氏および日本IBM株式会社 人事ダイバーシティ企画担当部長の梅田恵氏をご講演されました。シンポジウムには60名が参加し、熱心に耳を傾けました。また、支援事業の採択を受けた女性研究者の成果報告ポスター発表を同時開催し、参加者との活発な意見交換が行われました。

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)
「社の都女性研究者エンバウメント推進事業(H28~H33)」

平成28年
12/19(月)
15:00~17:00

キックオフ シンポジウム

第1回管理職セミナー

平成28年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」に本学の「社の都女性研究者エンバウメント推進事業」が採択されました。本事業は、研究環境のダイバーシティを高め、優れた研究成果の創出につなげるため、各機関・地域の特徴を踏まえた、女性研究者の活躍推進に向けた機関としての目標・行動計画を設定・公表することを要件とし、女性研究者のライフイベント及びワーク・ライフ・バランスに配慮した研究環境の整備や女性研究者の研究力向上のための取組及び女性研究者の積極採用や上位職への積極登用に向けた取組を支援するものです。キックオフシンポジウム・第1回管理職セミナーでは本取組について全学的に周知するとともに、ダイバーシティ研究環境の推進にかかわる他機関での先進的な取組をご紹介します。各部署において指導的地位にある方々のご参加をお待ちしております。

会場 東北大学 片平キャンパス 知の館3階 Lecture Theater

プログラム

- 15:00 [開会挨拶] 総長/星見 達
- 15:05 [来賓挨拶] 文部科学省科学技術・学術政策局 人材政策課(予定)
- 15:20 [概要説明] 「社の都女性研究者エンバウメント推進事業(H28~H33)」について
総長特別補佐(男女共同参画担当)・男女共同参画推進センター副センター長・
医学系研究科教授/大隅 典子
- 15:35 [取組紹介] TUMUG支援事業採択者によるポスター発表(常設)
- 15:45 [講演 1] 「大学を活性化するための戦略としての女性活躍促進」
名古屋大学 副理事・男女共同参画室長・生命農学研究科教授/東村 博子氏
- 16:15 [講演 2] 「Why Diversity—個人と組織を強くするための戦略」
日本アイ・ピー・エム株式会社 人事ダイバーシティ企画担当部長/梅田 恵氏
- 16:45 [質疑応答]
- 17:00 [閉会挨拶] 理事(総務・国際展開・事務統括担当)・男女共同参画推進センター長/橋本 俊哉

お問合せ 総務企画部総務課 TEL.022-217-4811
Mail: danjyo@rip.tohoku.ac.jp URL: <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/danjyo/>

男女共同参画推進センターは、年齢・性別等を問わず、誰もが夢を叶える持って、
お互い多分野で活躍できる社会を目指して、男女共同参画の推進に取り組んでいます。
URL: <http://www.morinome.tohoku.ac.jp/>



6-2 第13回東北大学男女共同参画シンポジウム「男性性を問う」

実施内容

日時：平成29年1月29日（日）13:00～17:00

会場：東北大学 星陵キャンパス 医学部開設百周年記念ホール（星陵オーディトリウム）

対象：学内教職員・学生および一般

参加人数：157名

総合司会 東北大学男女共同参画委員会 広報・シンポジウムWG

理学研究科 教授 寺田 真浩

プログラム：

13:00 開会挨拶 東北大学 総長 里見 進

13:05 来賓挨拶 内閣府男女共同参画局推進課課長補佐 宗近 美佐子氏

第Ⅰ部

13:10 第3回 澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞（澤柳記念賞）授賞式及び講演会

A賞

名古屋大学男女共同参画室 准教授 三枝 麻由美氏

13:40 東北大学における男女共同参画の取り組みについて

東北大学男女共同参画推進センター副センター長、医工学研究科／工学研究科 教授 田中 真美

東北大学総長特別補佐（男女共同参画担当）、男女共同参画推進センター副センター長、医学系研究科 教授 大隅 典子

----- 休憩（14:10～14:30） -----

第Ⅱ部

14:30 講演1 父親への期待の変化とその社会的背景

武蔵大学社会学部社会学科 助教 田中 俊之氏

15:00 講演2 男性にとっての男女共同参画の意義と課題

関西大学文学部 教授 多賀 太氏

----- 休憩（15:30～15:50） -----

15:50 講演3 Why Diversity -個人と組織を強くするための戦略

日本IBM株式会社 人事ダイバーシティ企画担当部長 梅田 恵氏

16:20 パネルディスカッション 「男性標準」社会を問い直す

コーディネーター：東北大学男女共同参画委員会 委員、医学系研究科 教授 朝倉 京子

16:50 講評・閉会挨拶 東北大学男女共同参画委員会 委員長 植木 俊哉

17:00 閉会

概要：1月29日に星陵キャンパス星陵オーディトリウムにて第13回東北大学男女共同参画シンポジウム「男性性を問う」が開催されました（主催：男女共同参画委員会）。第Ⅰ部では宗近美佐子氏（内閣府

男女共同参画局推進課課長補佐) から来賓のご挨拶をいただいた後、第3回澤柳政太郎記念東北大学男女共同参画賞の授賞式および受賞者である名古屋大学男女共同参画室を代表して、三枝麻由美氏(同室 准教授)による受賞講演を行いました。一部プログラム変更があり、第Ⅱ部は、田中俊之氏(武蔵大学社会学部 助教)、多賀太氏(関西大学文学部 教授)、梅田恵氏(日本IBM株式会社 人事ダイバーシティ企画担当部長)による講演およびパネルディスカッション「男性標準」社会を問い直す」が行われました。学内外の皆様、約160名にご参加いただき、大変盛況なうちに終了しました。

プログラム

13:00 開会挨拶 東北大学 星見 進

13:05 表彰挨拶

13:10 第Ⅰ部 澤柳記念授賞式・受賞講演
主催 名古屋大学男女共同参画室 実行 三枝麻由美(名古屋大学)
 東北大学男女共同参画委員会の取組について

13:55 休憩

14:15 第Ⅱ部 特別講演
**「男女」の分けとけという
見えない金網について**
講演者! 安富 歩衣
東北大学東北文化研究センター

14:30 休憩

15:35 第Ⅲ部 パネルディスカッション
「男性標準」社会を問い直す
コーディネーター! 東北大学男女共同参画推進課 榎本 俊哉

16:50 閉会挨拶 榎本 俊哉

17:00 表彰会

男性性を問う

第13回 東北大学男女共同参画シンポジウム

男女共同参画の推進は、女性が既存の男性社会に参入し適応することではなく、男性社会そのものを変革する試みであるはず。これまで男女共同参画については、女性の視点から眺められることがほとんどでしたが、本シンポジウムでは、既存の社会をリードしてまた男性の特性(男性性)をとりあげます。そして、現代社会において男性ほどのような男性性に頼められているのか、既存の男性社会に改革の可能性はあるのかをディスカッションします。

平成29年 1月29日 日
13:00—17:00

東北大学 雄勝キャンパス 医学部開設 百周年記念ホール (星見オーデトリウム)

入場無料、どなたでも参加可能



6-3 金属材料研究所男女共同参画セミナー「女性研究者に応援の気持ちを込めて」

実施内容

日時：平成29年2月1日（水）12:00～14:30

場所：金研本多記念館3階会議室及び同2号館講堂

参加人数：18名

プログラム：12:00-13:00 ランチミーティング

13:00-14:00 講演

講演者：豊橋技術科学大学 教授・学長補佐（男女共同参画担当）

中野 裕美 先生

講演タイトル「女性研究者に応援の気持ちを込めて」

14:00-14:30 質疑応答、意見交換



概要：豊橋技術科学大学の中野裕美先生をお迎えして、ランチミーティング及びセミナーを実施しました。ランチミーティングでは、主に保育園などの子育て環境を中心とした職場環境、東北大学の男女共同参画の取組、各大学の状況について議論しました。東北大学における出産後の職場復帰の障害について整理したことや、東北大学の多くの取組についての再認識などの効果がありました。さらに、大学による固有の事情も、男女比率に大きく影響するとの意見を頂き、東北大学は理系が9割を占めることが、他の総合大学と比べると男女比率が上がりにくい原因の可能性として考えられます。

セミナーでは、日本の主要大学の男女共同参画の状況などの説明がありました。上位職における男女比率は、海外に比べて圧倒的に日本が遅れていること、工学分野においては欧米も日本も女性比率が相変わらず低いことなどが示されました。今後の取組においては、

1) 上位職にある女性教員が活躍するロールモデルをつくること。

2) 管理職のメンバーの意識を変えること。

の2点が重要とのことでした。そのためには、管理職向けセミナーが有効であることと、暫定的には女性限定公募などの強引なやり方も、ロールモデルを作るという意味で効果が期待できるとしました。

上記のように、所長も交えて男女共同参画に関する議論ができたことは、大いに意義がありました。今後の金研における男女共同参画の活動において参考となる有意義なイベントでした。

講師紹介
中野 裕美 氏
豊橋技術科学大学
教授
学長補佐
(男女共同参画担当)
専門分野
金属材料、組織、製造管理

東北大学金属材料研究所男女共同参画セミナー
「女性研究者に
応援の気持ちを込めて」

講師 中野 裕美 氏
研究職としての経験、キャリア形成と出産・育児に関する悩みに加え、女性研究者の現状や、学会、日本学術会議、大学等での最近の取組に関する話題を題材として頂きます。
女性研究者が活躍するための環境、効果的な取組について、率直に、親身で考えられる機会を持ちませんか。
平成 29 年 2 月 1 日（水）12:00-14:30
東北大学金属材料研究所（片平キャンパス）

12:00-12:50 ランチミーティング
本多記念館 3 階会議室
中野教授をお招きして、気軽に意見・情報交換を行います。
※昼食をご持参ください。
13:00-14:30 中野教授による講演
および質疑応答
金研 2 号館講堂

※参加を希望される方は、1月30日（月）までに以下についてメールにて下記連絡先までお知らせください。
1) 氏名
2) 所属・所属部署
3) ランチミーティング及び講演への参加の希望
※お申し込みご連絡先
東北大学金属材料研究所
総務課 佐藤 氏
fem-yom@em.tohoku.ac.jp
TEL:022-855-2211 内線 611

主催
東北大学金属材料研究所
男女共同参画 WG



6-4 電気通信研究所「ナノ・バイオおよびナノ・有機融合分野で活躍する女性達」

実施内容

日時：平成29年2月3日（金）14:00～17:10

場所：電気通信研究所 ナノ・スピン総合研究棟
4階カンファレンスルーム

参加人数：27名

- プログラム：14:00-14:05 開会のご挨拶 平野愛弓
- 14:05-15:05 高井 まどか先生（東京大学）
「界面ナノ制御による高機能バイオデバイス創成」
- 15:05-15:45 細川 千絵先生（産業技術総合研究所）
「集光レーザービームの光摂動による細胞機能制御」
～休憩～
- 16:00-16:40 松永 行子先生（東京大学）
「マイクロ材料工学を利用した細胞微小環境制御と組織構築」
- 16:40-17:10 大嶋 梓先生（NTT物性科学基礎研究所）
「固体基板上に形成した人工脂質二分子膜の動的観察」



概要：本セミナーは、多様な人材が活躍できる大学研究環境の実現のための取組として、ナノ・バイオおよびナノ・有機融合分野の研究をリードしている若手・中堅・リーダー的女性研究者に講演していただくことにより、様々なロールモデルを若手教員や大学院生、学部生に紹介することを目的として開催いたしました。

特に、細胞を工学的に制御することにより機能計測を行う研究や、機能や病態を調べるためのプラットフォームを構築してデバイス化を目指す研究は関連分野の研究者の関心を集め、熱心な討論が展開されました。女性研究者のみならず、本学の男性研究者や他大学の男性研究者からも多くの質問がなされ、男女の垣根を超えた活発な議論が繰り広げられ、ダイバーシティ研究環境実現のための取組の一つとして大きな効果が得られました。



文部科学省 科学技術人材育成補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)
社の女性研究者エンパワーメント推進事業 男女共同参画セミナー

『ナノ・バイオおよびナノ・有機融合分野で活躍する女性達』

日時 平成29年2月3日(金) 14:00～17:10
場所 電気通信研究所 ナノ・スピン総合研究棟
4階カンファレンスルーム

--- プ ロ グ ラ ム ---

14:00～14:05 開会のご挨拶 平野愛弓
14:05～15:05 高井 まどか先生(東京大学)
「界面ナノ制御による高機能バイオデバイス創成」
15:05～15:45 細川 千絵先生(産業技術総合研究所)
「集光レーザービームの光摂動による細胞機能制御」
16:00～16:40 松永 行子先生(東京大学)
「マイクロ材料工学を利用した細胞微小環境制御と組織構築」
16:40～17:10 大嶋 梓先生(NTT物性科学基礎研究所)
「固体基板上に形成した人工脂質二分子膜の動的観察」

問合せ先:
平野 愛弓 (東北大学 AIMR/電気通信研究所)
Tel. 022-795-4866
E-mail: ayumi.hirano.a5@tohoku.ac.jp

共催： 情報バイオロニクス研究会、連携共同プロジェクト研究会「半導体微細加工と脂質二分子膜の融合に基づく高機能バイオ情報デバイスの創成」

6-5 多元物質科学研究所第5回男女共同参画推進セミナー ～女性科学者が語る研究・人生の楽しみ方～

実施内容

日時：平成29年2月20日（月）14:00～17:00

場所：南総合研究棟2（材料・物性総合研究棟Ⅰ）大会議室

参加人数：10名

プログラム：14:00-14:10 趣旨説明

14:10-15:10 程 久美子 先生

（東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻）

「女性研究者のトリレンマ」

15:10-16:10 永澤 秀子 先生（岐阜薬科大学）

「化学とライフのバランス、がんの創薬研究者を目指して」

16:10-17:00 パネルディスカッション&茶話会

第5回多元研男女共同参画推進セミナー	
文部科学省 科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特命型） ～女性科学者が語る研究・人生の楽しみ方～	
主催 多元研男女共同参画委員会 日時 平成29年2月20日 14時より 場所 南総合研究棟2（材料・物性総合研究棟Ⅰ）大会議室	
プログラム	
14:00-14:10	趣旨説明 永次 史（東北大・多元研）
14:10-15:10	程 久美子 先生（東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻） 「女性研究者のトリレンマ」
15:10-16:10	永澤 秀子 先生（岐阜薬科大学） 「化学とライフのバランス、がんの創薬研究者を目指して」
16:10-17:00	パネルディスカッション&茶話会
連絡先：永次 史（東北大学・多元物質科学研究所） 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1 (TEL&FAX) 022-217-5633/e-mail:nagata@tagen.tohoku.ac.jp	

概要：今回、東京大学及び岐阜薬科大学より2人の講師の先生をお呼びし、セミナーを開催いたしました。講演頂いた先生方はライフイベントと研究をうまく両立されており、その経験談をお聞きできたことは女子学生にとって大変有意義でした。

特にセミナー終了後に行った茶話会では、参加者の女子学生から率直な質問がなされました。参加した女性研究者や大学院生とテーブルを囲み、和やかな雰囲気の中、研究を続けながらの育児の大変さや、研究者のキャリアとのバランスなどについて率直なディスカッションが行われました。このディスカッションを通して、将来、女性研究者として活躍していくための指針になりました。参加者が少なかったのは残念ではありましたが、少ないことにより、よりフランクなディスカッションができました。



6-6 他大学訪問調査

東北大学における女性教員在籍率増加に向けた取組を検討するにあたり、他大学等の優れた取組を参考にするために訪問調査を行いました。

調査では、「推進体制」、「女性研究者の採用と上位職への積極的登用に向けた取組」、「ダイバーシティ研究環境整備のための取組」、「女性研究者の研究力向上およびリーダー育成の取組」、「次世代の女性研究者育成の取組」、「ダイバーシティ研究環境整備に関する意識醸成と広報活動」などの項目について尋ね、各機関から活動状況について説明を受けました。

大学名	訪問日時	訪問者	概要
岡山大学	2016.12.20(火)～21(水)	米永 一郎 藤村 維子 太田 舞	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児保育施設「なかよし園」、病児保育ルーム「ますかつと」、学童保育「かいのき」など、育児支援が充実している。 ・上位職への登用に関する取組として、ポストアップ制度を実施し、年間2名の女性を上位職にしている。
名古屋大学	2016.12.22(木)	藤村 維子 村上亜矢子 野中 久美	<ul style="list-style-type: none"> ・女性上位職教員増員のために総長裁量ポストを用い「女性PI枠」を設置、国際公募により全学で毎年1名の女性リーダーを継続的に採用している（5年間で4名の教授）。 ・全学で毎年1名の特任助教として継続的に採用し、若手女性研究者増員している。
長崎大学	2017.1.6(金)	米永 一郎 木村 賢一 村上亜矢子	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを年1回必ず行う事で、各研究者のニーズを理解し取り組んでいる。 ・介護コンシェルジュを配置しており、具体的な取組や状況についての話を伺った。
新潟大学	2017.1.20(金)	大隅 典子 藤村 維子 長越由美子	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画推進センター内に4～5人保育できる場所があり、0歳～6歳まで利用できる。専任教員が看護師の資格を持っているため、学生と一緒にあずかることができる。 ・女子学生が記者となって、県内の女性研究者を紹介するニュースレター「NI-CHE!!」の発行を行っている。
九州大学	2017.2.3(金)	永次 史 村上亜矢子 西川 雄一	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画推進委員会において、全学的な方策や基本方針に関することを決定している。 ・九大方式「女性枠設定による教員採用・養成システム」を実施 ・「ポイント制」による部局人員管理方式と部局間競争による審査・採用方法
早稲田大学	2017.2.9(木)	田中 真美 藤村 維子 中戸川政江	<ul style="list-style-type: none"> ・2月より、理工系女性メンター制度を導入。メンターとの面談により、メンティの問題解決力の向上を目指している。 ・学生向けサポートセンターとして、Student Diversity Centerを活用している。
日本IBM(株)			<ul style="list-style-type: none"> ・女性支援、両立支援、障害者支援、LGBT支援、多言語支援、ジェネレーション支援を対象として推進活動を行っている。 ・復職応援セミナーを実施し、両立のコツなど意見交換の場を提供している。
京都大学	2017.2.17(金)	藤村 維子 齋藤 仁 長越由美子	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園入園待機乳児保育施設を、男女共同参画推進センター内に設置している。 ・顕彰制度「京都大学たちばな賞」があり、株式会社ワコールが協賛している。広報誌に、「女性研究者になる」というエッセイを寄稿してもらい、個人の研究の紹介等を行っている。
理化学研究所	2017.3.1(水)	大隅 典子 高木 雅弘	<ul style="list-style-type: none"> ・2009年10月から「在宅勤務に関する細則」を施行し実施しており、年間5名から10名程度活用している。 ・外国人研究者への支援に力を入れており、各部局に英語で説明できる非常勤職員を配置するほか、基本的な就労環境に関する規則等は英文化されている。

6-7 アンケート結果報告

①青葉山地区第3保育所設置に係るアンケート

青葉山地区第3保育所設置に係るアンケート

アンケートの目的
教職員等の就労・育児の両立を支援し男女共同参画を推進する観点から、現在2か所の学内保育所を設置していますが、潜在的に定員を超える入園希望者があり、施設が大幅に不足していること、加えて新キャンパス整備に伴い、今後、青葉山地区の大幅な人口増加が見込まれることから、同地区に新たな保育所（以下、青葉山地区第3保育所という）を設置することになりました。
つきましては上記保育所の設置に伴い、開所時の募集人数の参考とすることを目的としてアンケート調査を実施します。

アンケートの対象
全教職員（10,425人）

青葉山地区第3保育所設置概要
場 所： 青葉山キャンパス 地下鉄東西線 青葉山駅南1出口付近
※青葉山キャンパスに新たに設置する厚生施設内3階
規 模： 定員100名
開 業： 平成30年度開業（予定）
対 象： 本学に所属する教職員、学生の子供（生後2か月～就学前）

（参考）
保育料は未定のため、認可保育所に準じた保育料とみなして以下のアンケートにお答えください。
※認可保育所保育料・・・年収によって異なる。最大月額70,000円（別紙参照）。

1 回答者の現在の状況について教えてください。

1-1 年齢 a.10代 b.20代 c.30代 d.40代 e.50代以上)
1-2 性別 a.男性 b.女性 c.回答しない)
1-3 身分 a.教員 b.事務職員 c.看護師 d.技術職員 e.非常勤職員 f.その他 ()
1-4 所属キャンパス a.片平 b.川内 c.青葉山 d.星陵 e.雨宮 f.その他 ()
1-5 配偶者またはパートナーがいますか？ a.はい b.いいえ)

2 未就学のお子さんはいらっしゃいますか？

a.いる、または現在妊娠中 b.いない
→3、及び5以降にご回答ください →4以降にご回答ください。

1

3 (2で「a.いる、または現在妊娠中」と答えた方に伺います)

3-1 お子様の年齢を教えてください（複数回答可）
a.0歳 b.1歳 c.2歳 d.3歳 e.4歳 f.5歳 g.妊娠中)
3-2 回答者が就業中、未就学のお子さんの保育は主に誰が行っている、行う予定ですか？
a.配偶者 b.配偶者以外の家族 c.保育所 d.その他 ()
3-3 青葉山地区第3保育所が設置された場合、お子様の入園を希望しますか？
a.希望する b.他に預け先がなければ希望する c.希望しない)
3-4 (3-3で「a.希望する」と答えた方に伺います)
入園を希望する理由は何ですか？
a.保育料 b.場所 c.保育時間 d.保育の質 e.その他 ()
3-5 (3-3で「b.他に預け先がなければ希望する」「c.希望しない」と答えた方に伺います)
入園を希望しない理由は何ですか？
a.保育料 b.場所 c.保育時間 d.保育の質 e.転園をさせたくないから f.その他 ()
3-6 差し支えなければ現在通っている保育園を教えてください。
()

4 (2で「b.いない」と答えた方に伺います)

4-1 該当年齢の子どもがいたら利用を希望しますか？
a.希望する b.他に預け先がなければ希望する c.希望しない)
4-2 (4-1で「a.希望する」と答えた方に伺います)
入園を希望する理由は何ですか？
a.保育料 b.場所 c.保育時間 d.保育の質 e.その他 ()
4-3 (4-2で「b.他に預け先がなければ希望する」「c.希望しない」と答えた方に伺います)
入園を希望しない理由は何ですか？
a.保育料 b.場所 c.保育時間 d.保育の質 e.その他 ()
4-4 差し支えなければ、当てはまる方を選択してください。
a.2、3年以内に子供をもつ予定がある
b.近い将来子供をもつ予定はない)

2

5 青葉山地区第3保育所について、感想をお聞かせください

5-1 場所について a.適切である b.適切でない)
理由 ()
5-2 適切だと思う保育料に○を付けてください。
0歳児 a.7万円 b.5万円 c.3万円 d.1万円 e.その他 ()
1～2歳児 a.7万円 b.5万円 c.3万円 d.1万円 e.その他 ()
3歳児以上 a.7万円 b.5万円 c.3万円 d.1万円 e.その他 ()
5-3 希望する保育日に○をつけてください（複数選択可）。
a.平日 b.土曜日 c.日曜日 d.祝日)
5-4 希望する開園時間に○をつけてください（複数選択可）。
a.6時 b.7時 c.8時 d.9時 e.その他 ()
5-5 希望する開園時間に○をつけてください（複数選択可）。
a.18時 b.19時 c.20時 d.21時 e.その他 ()
5-6 一時保育は必要ですか？
a.必要 b.不要 c.その他 ()
5-7 一時保育所がある場合、適切だと思う1時間当たりの保育料に○を付けてください。
a.600円 b.800円 c.1,000円 d.1,200円 e.その他 ()

6 学内保育所全般について

6-1 大学への就職を考える際、学内保育所の有無はどれくらい重要と考えますか？
a.必要不可欠 b.あれば好ましい c.なくても良い d.その他 ()
6-2 当保育所は学内保育所として設置予定ですが、それ以外の利用についての検討の参考にするためお聞きします。学外者の利用についてどのように思われますか？
a.学内者限定が良い
b.学内者優先にすべきだが、定員に余裕があれば学外者を受け入れても構わない
c.その他 ()

3

6-3 青葉山地区以外の学内保育所の設置希望について教えてください

a.自分の所属地区に設置（増設）された場合はぜひ利用したい
b.近隣地区に設置された場合はぜひ利用したい
c.自分の所属地区に関係なく、利便性の良い学内保育所を利用したい
d.地区に関係なく定員に空きがあれば利用したい
e.その他 ()

6-4 その他希望があれば教えてください。
()

※ご回答ありがとうございます。本アンケートにご回答いただいた内容は、目的以外には使用しません。

【お問い合わせ】
東北大学総務企画部総務課 男女共同参画担当
TEL：022-217-4811 MAIL：danjyo@grp.tohoku.ac.jp

4

<実施期間>

12月20日～1月13日

<回収率>

【回収数】4,960部

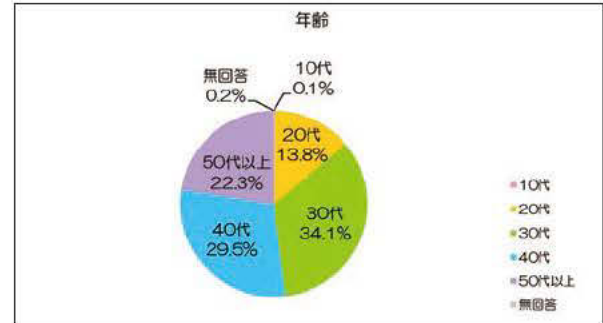
【送付数】10,425部 =47.6%

<アンケート件数： 4,960件>

1. 回答者の現在の状況について教えてください

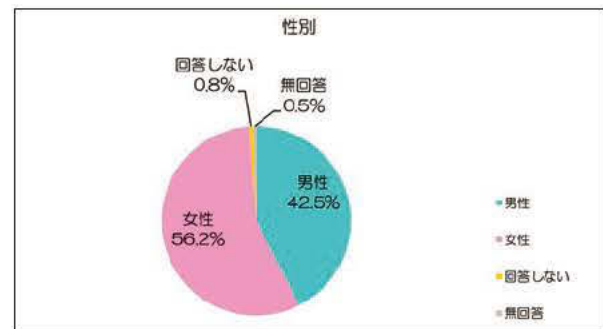
1-1. 年齢

	回答数	%
a 10代	7	0.1%
b 20代	684	13.8%
c 30代	1,689	34.1%
d 40代	1,462	29.5%
e 50代以上	1,107	22.3%
無回答	11	0.2%
計	4,960	100.0%



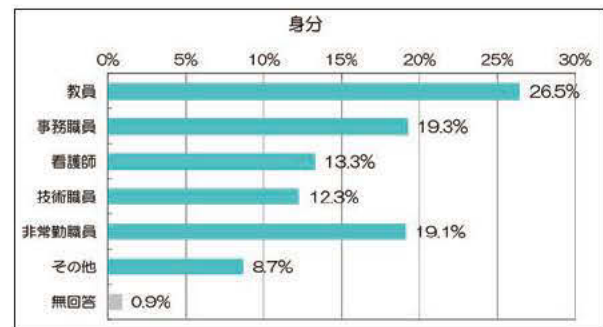
1-2. 性別

	回答数	%
a 男性	2,109	42.5%
b 女性	2,788	56.2%
c 回答しない	39	0.8%
無回答	24	0.5%
計	4,960	100.0%



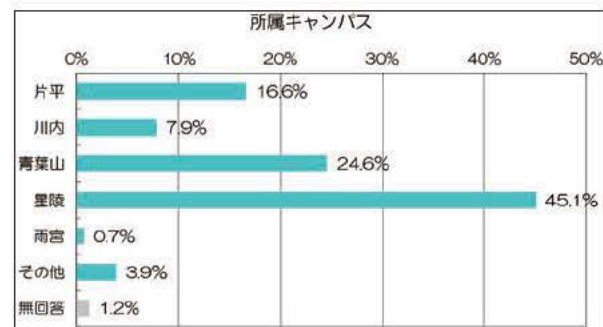
1-3. 身分

	回答数	%
a 教員	1,312	26.5%
b 事務職員	955	19.3%
c 看護師	659	13.3%
d 技術職員	609	12.3%
e 非常勤職員	948	19.1%
f その他	432	8.7%
無回答	45	0.9%
計	4,960	100.0%



1-4. 所属キャンパス

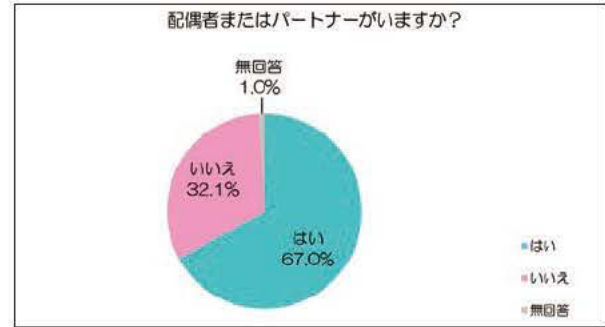
	回答数	%
a 片平	825	16.6%
b 川内	390	7.9%
c 青葉山	1,222	24.6%
d 星陵	2,239	45.1%
e 雨宮	37	0.7%
f その他	194	3.9%
無回答	61	1.2%
計	4,968	100.0%



※複数回答あり

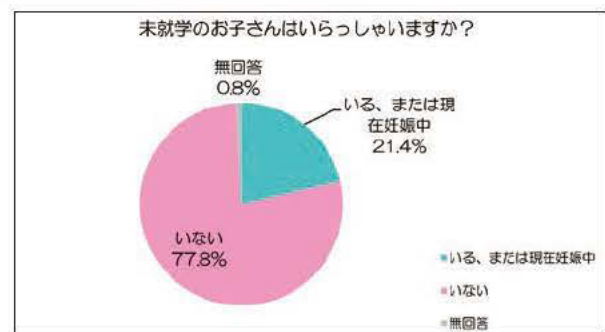
1-5. 配偶者またはパートナーがいますか？

	回答数	%
a はい	3,321	67.0%
b いいえ	1,590	32.1%
無回答	49	1.0%
計	4,960	100.0%



2. 未就学のお子さんはいらっしゃいますか？

	回答数	%
a いる、または現在妊娠中	1,060	21.4%
b いない	3,860	77.8%
無回答	40	0.8%
計	4,960	100.0%

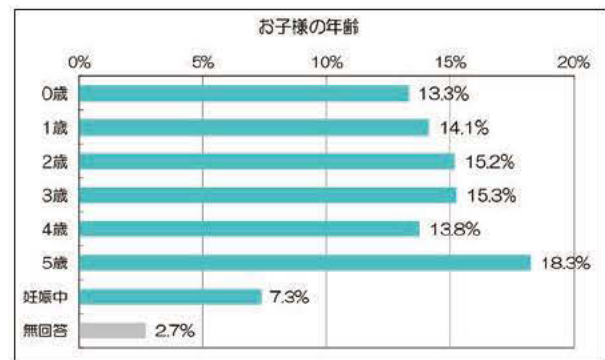


3. (2で「aいる、または現在妊娠中」と答えた方に伺います)

3-1. お子様の年齢を教えてください

	回答数	%
a 0歳	178	13.3%
b 1歳	189	14.1%
c 2歳	203	15.2%
d 3歳	204	15.3%
e 4歳	184	13.8%
f 5歳	244	18.3%
g 妊娠中	98	7.3%
無回答	36	2.7%
計	1,336	100.0%

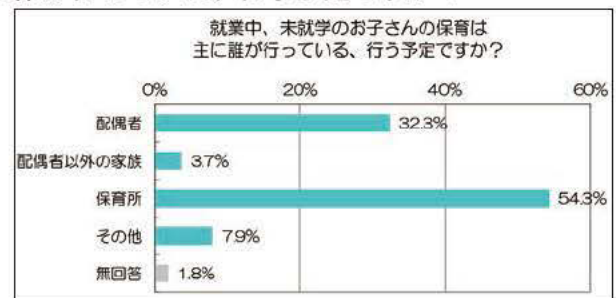
※複数回答あり



3-2. 回答者が就業中、未就学のお子さんの保育は主に誰が行っている、行う予定ですか？

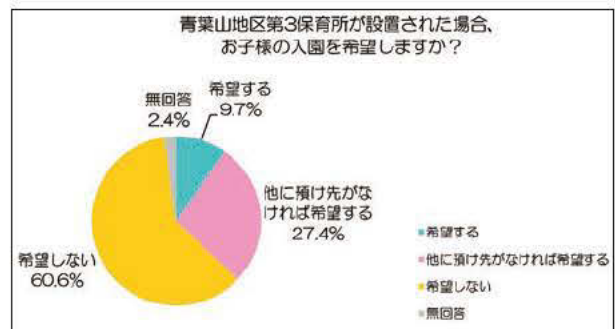
	回答数	%
a 配偶者	362	32.3%
b 配偶者以外の家族	41	3.7%
c 保育所	608	54.3%
d その他	89	7.9%
無回答	20	1.8%
計	1,120	100.0%

※複数回答あり



3-3. 青葉山地区第3保育所が設置された場合、お子様の入園を希望しますか？

	回答数	%
a 希望する	103	9.7%
b 他に預け先がなければ希望する	290	27.4%
c 希望しない	642	60.6%
無回答	25	2.4%
計	1,060	100.0%

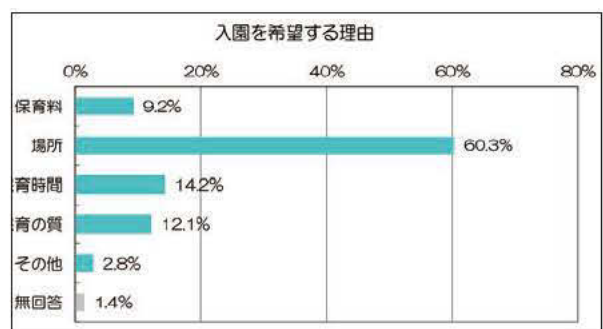


(3-3で「a希望する」と答えた方に伺います)

3-4. 入園を希望する理由は何ですか？

	回答数	%
a 保育料	13	9.2%
b 場所	85	60.3%
c 保育時間	20	14.2%
d 保育の質	17	12.1%
e その他	4	2.8%
無回答	2	1.4%
計	141	100.0%

※複数回答あり

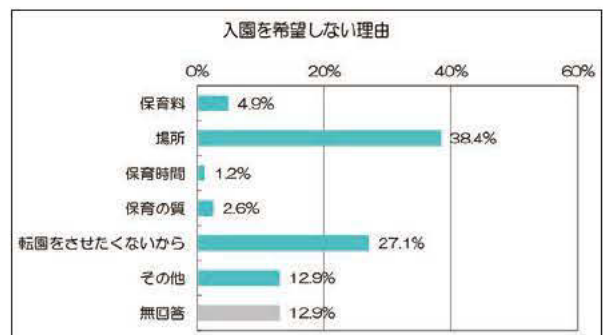


(3-3で「b他に預け先がなければ希望する」「c希望しない」と答えた方に伺います)

3-5. 入園を希望しない理由は何ですか？

	回答数	%
a 保育料	54	4.9%
b 場所	421	38.4%
c 保育時間	13	1.2%
d 保育の質	28	2.6%
e 転園をさせたくないから	297	27.1%
f その他	142	12.9%
無回答	142	12.9%
計	1,097	100.0%

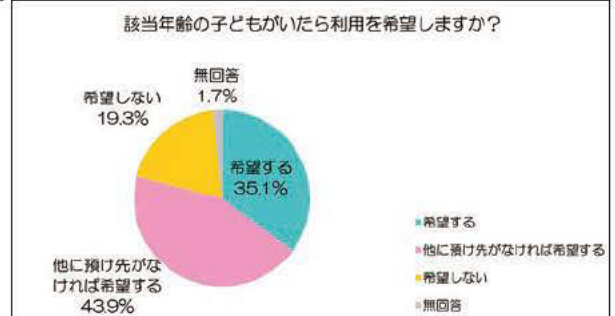
※複数回答あり



4. (2で「bいない」と答えた方に伺います)

4-1. 該当年齢の子どもがいたら利用を希望しますか？

	回答数	%
a 希望する	1,356	35.1%
b 他に預け先がなければ希望する	1,694	43.9%
c 希望しない	746	19.3%
無回答	64	1.7%
計	3,860	100.0%

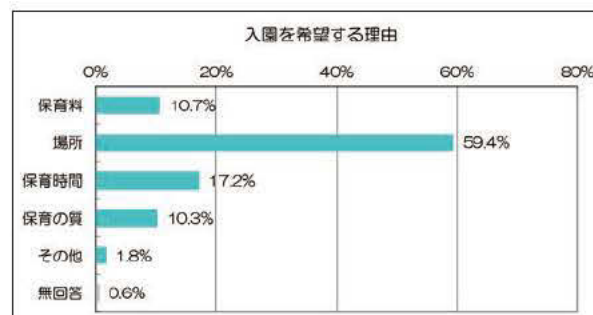


(4-1で「a希望する」と答えた方に伺います)

4-2. 入園を希望する理由は何ですか？

	回答数	%
a 保育料	200	10.7%
b 場所	1,114	59.4%
c 保育時間	323	17.2%
d 保育の質	193	10.3%
e その他	33	1.8%
無回答	12	0.6%
計	1,875	100.0%

※複数回答あり

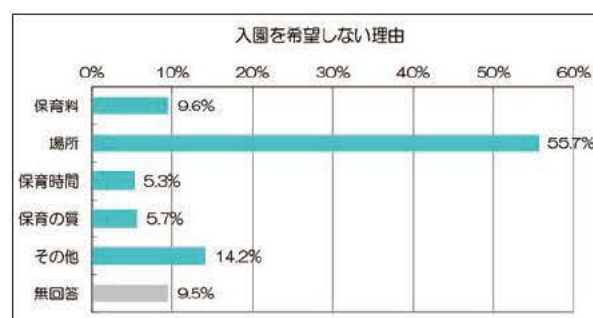


(4-1で「b他に預け先がなければ希望する」「c希望しない」と答えた方に伺います)

4-3. 入園を希望しない理由は何ですか？

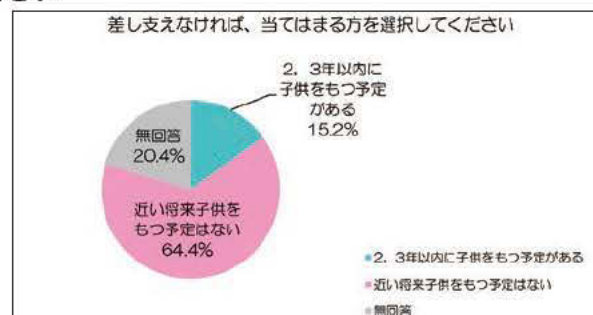
	回答数	%
a 保育料	255	9.6%
b 場所	1,481	55.7%
c 保育時間	142	5.3%
d 保育の質	152	5.7%
e その他	377	14.2%
無回答	254	9.5%
計	2,661	100.0%

※複数回答あり



4-4. 差し支えなければ、当てはまる方を選択してください

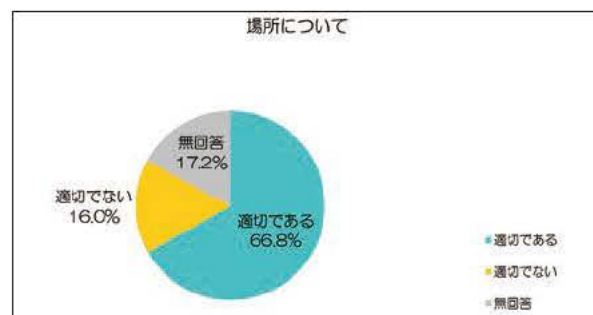
	回答数	%
a 2, 3年以内に子供をもつ予定がある	585	15.2%
b 近い将来子供をもつ予定はない	2,486	64.4%
無回答	789	20.4%
計	3,860	100.0%



5. 青葉山地区第3保育所について、感想をお聞かせください

5-1. 場所について

	回答数	%
a 適切である	3,315	66.8%
b 適切でない	793	16.0%
無回答	852	17.2%
計	4,960	100.0%

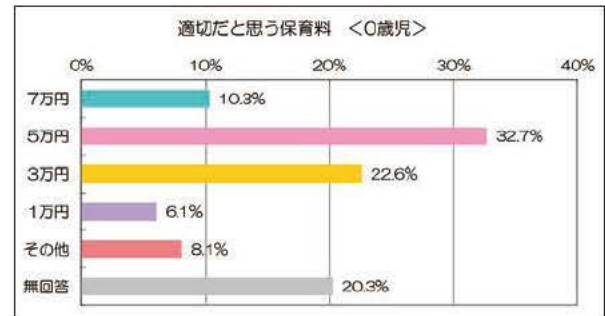


5-2. 適切だと思う保育料 0歳児

	回答数	%
a 7万円	512	10.3%
b 5万円	1,625	32.7%
c 3万円	1,123	22.6%
d 1万円	301	6.1%
e その他	403	8.1%
無回答	1,007	20.3%
計	4,971	100.0%

※複数回答あり

a+b+c+d
平均
4.3万円

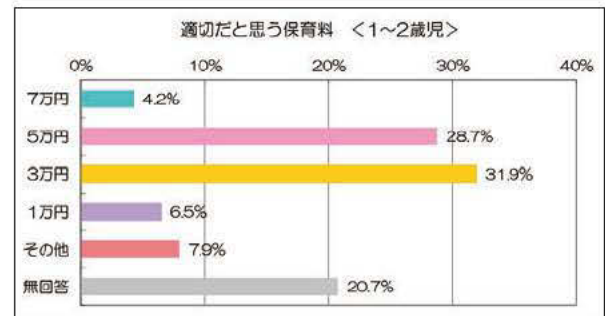


1～2歳児

	回答数	%
a 7万円	211	4.2%
b 5万円	1,428	28.7%
c 3万円	1,587	31.9%
d 1万円	322	6.5%
e その他	395	7.9%
無回答	1,030	20.7%
計	4,973	100.0%

※複数回答あり

a+b+c+d
平均
3.9万円

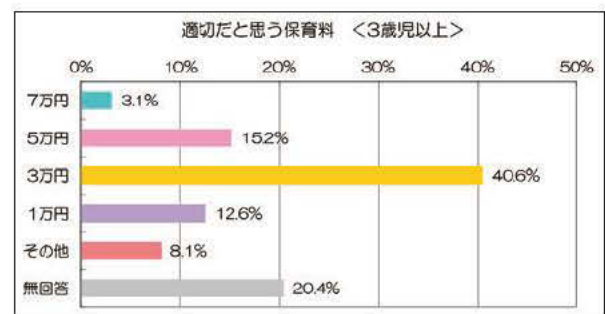


3歳児以上

	回答数	%
a 7万円	156	3.1%
b 5万円	756	15.2%
c 3万円	2,018	40.6%
d 1万円	626	12.6%
e その他	403	8.1%
無回答	1,016	20.4%
計	4,975	100.0%

※複数回答あり

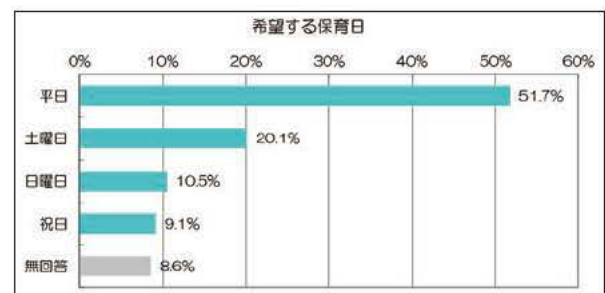
a+b+c+d
平均
3.2万円



5-3. 希望する保育日

	回答数	%
a 平日	4,226	51.7%
b 土曜日	1,642	20.1%
c 日曜日	854	10.5%
d 祝日	746	9.1%
無回答	699	8.6%
計	8,167	100.0%

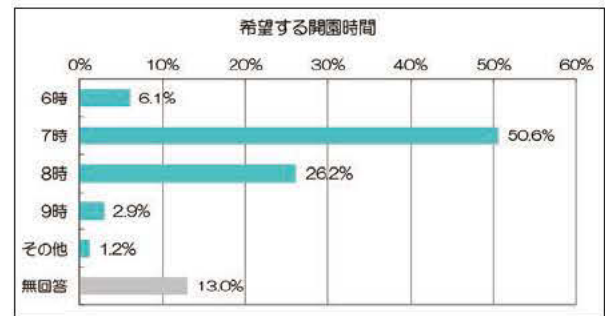
※複数回答あり



5-4. 希望する開園時間

	回答数	%
a 6時	324	6.1%
b 7時	2,695	50.6%
c 8時	1,395	26.2%
d 9時	157	2.9%
e その他	64	1.2%
無回答	693	13.0%
計	5,328	100.0%

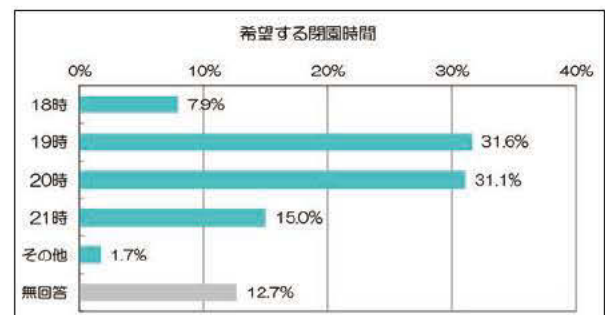
※複数回答あり



5-5. 希望する閉園時間

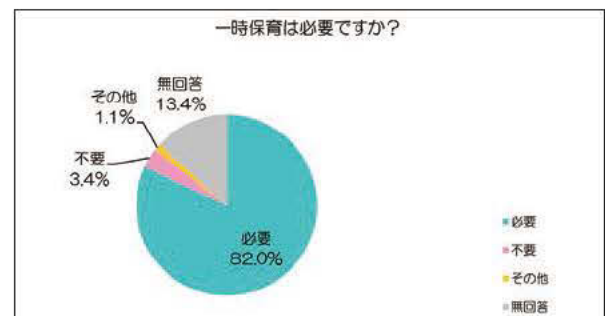
	回答数	%
a 18時	430	7.9%
b 19時	1,711	31.6%
c 20時	1,681	31.1%
d 21時	812	15.0%
e その他	92	1.7%
無回答	686	12.7%
計	5,412	100.0%

※複数回答あり



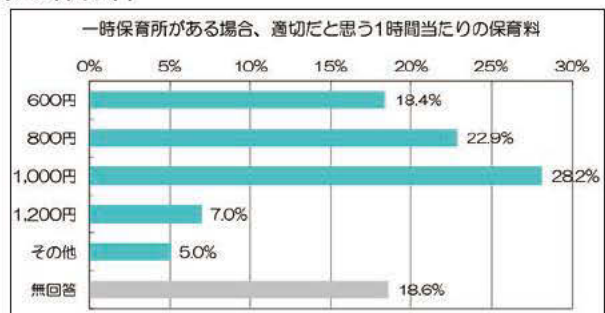
5-6. 一時保育は必要ですか？

	回答数	%
a 必要	4,069	82.0%
b 不要	168	3.4%
c その他	56	1.1%
無回答	667	13.4%
計	4,960	100.0%



5-7. 一時保育所がある場合、適切だと思う1時間当たりの保育料

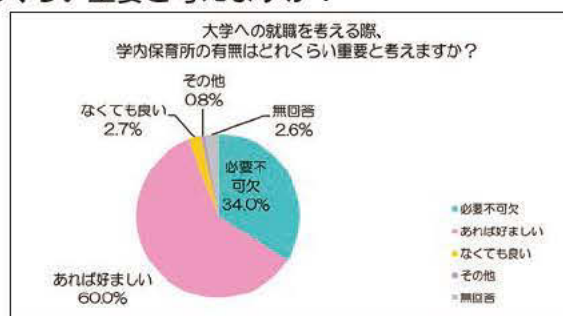
	回答数	%
a 600円	912	18.4%
b 800円	1,134	22.9%
c 1,000円	1,397	28.2%
d 1,200円	345	7.0%
e その他	250	5.0%
無回答	922	18.6%
計	4,960	100.0%



6. 学内保育所全般について

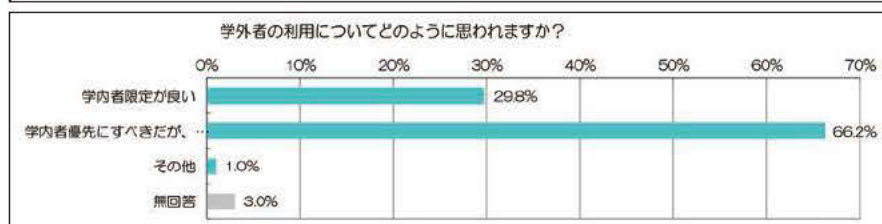
6-1. 大学への就職を考える際、学内保育所の有無はどれくらい重要と考えますか？

	回答数	%
a 必要不可欠	1,685	34.0%
b あれば好ましい	2,975	60.0%
c なくても良い	133	2.7%
d その他	38	0.8%
無回答	129	2.6%
計	4,960	100.0%



6-2. 当保育所は学内保育所として設置予定ですが、それ以外の利用についての検討の参考にするためお聞きします。学外者の利用についてどのように思われますか？

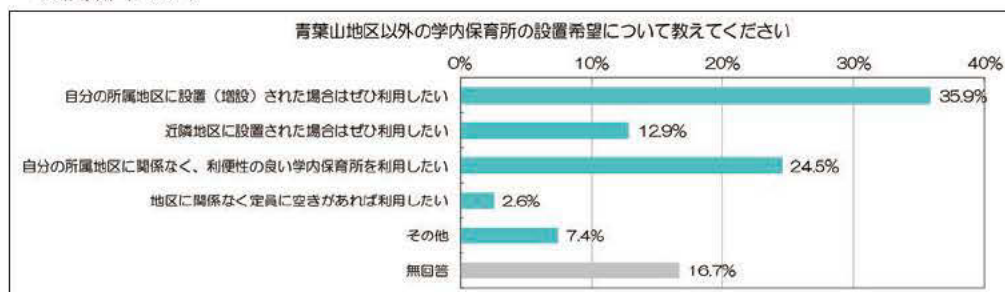
	回答数	%
a 学内者限定が良い	1,478	29.8%
b 学内者優先にすべきだが、定員に余裕があれば学外者を受け入れても構わない	3,283	66.2%
c その他	49	1.0%
無回答	150	3.0%
計	4,960	100.0%



6-3. 青葉山地区以外の学内保育所の設置希望について教えてください

	回答数	%
a 自分の所属地区に設置（増設）された場合はぜひ利用したい	1,844	35.9%
b 近隣地区に設置された場合はぜひ利用したい	663	12.9%
c 自分の所属地区に関係なく、利便性の良い学内保育所を利用したい	1,262	24.5%
d 地区に関係なく定員に空きがあれば利用したい	133	2.6%
e その他	383	7.4%
無回答	858	16.7%
計	5,143	100.0%

※複数回答あり



② 「研究環境に関するアンケート」の実施と報告書の発行

目的

東北大学の研究職を取り巻く研究環境の実態を明らかにするとともに、ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）の取組の周知の機会となることを期待して実施しました。

方法

本調査は、東北大学の研究者を対象として平成29年2月1日より2月12日に実施されました。本報告書資料に収録されている調査票をWeb上に揚げ、Web上で回答を行うように依頼しました。対象者には、各部署事務担当者を通じて掲示による周知を図る一方で、部局長や男女共同参画委員会委員、女性研究者エンパワーメントタスクフォース、女性研究者に対して実施協力を別途依頼しました。

対象

本調査は、平成29年2月1日時点で東北大学に所属する常勤の教員及び教育・研究等に従事している非常勤職員（医員、教育研究支援者、研究支援者、産学官連携研究員）

期間

調査期間は平成29年2月1日から平成29年2月12日まで

調査項目

セクションA 基礎事項

性別、年齢、職名、雇用形態及び任期、最終学歴、研究分野、勤務キャンパス、所属部局

セクションB 研究キャリア

研究キャリアの長さ、東北大学での研究キャリアの長さ、研究キャリアを離れた経験、現在の研究へのやりがい・満足、今後のキャリアに対する考え

セクションC ライフ関連

パートナーの有無及びパートナーの職業、子どもの数、年代、子育て支援制度の利用状況、平日の時間配分、昨年度の教育・会議等への出席・研究状況、ワークライフバランスへの満足状況

セクションD 男女共同参画・女性研究者支援

回答者自身の男女共同参画・研究者支援に関する取組、東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業に関する知識と参加状況、東北大学における男女共同参画・女性研究者支援事業に対する意見・要望

回収率

有効回答数：529名

全対象者数（職員数）：4,592名

回答率：11.5%（回答率＝有効回答数／全対象者数）

本アンケート結果の詳細は、平成28年度「研究環境に関するアンケート」実施報告書ならびに、東北大学男女共同参画推進センター HP（URL: <http://www.tumug.tohoku.ac.jp/>）内の、平成28年度「研究環境に関するアンケート」実施報告」の項をご参照下さい。

研究者を対象にした研究環境に関するアンケート調査

東北大学の研究者の皆様におかれましては、日頃より男女共同参画に関する業務について、ご支援ご協力をいただきありがとうございます。

さて、本学は、これまでに文部科学省の女性研究者支援事業による支援や総長裁量経費「男女共同参画・女性研究者支援事業」により女性研究者に焦点を当てた支援を実施してきました。この度、平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に採択され、平成28年度から6年間にわたり「杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業」を推進することになりました。

つきましては、研究者の皆様の研究環境の実態を明らかにし、今後の事業実施に生かしていきたいと思っております。お忙しい中を恐縮ですが、本アンケート調査にご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

平成29年2月1日
理事（総務・国際展開・事務総括担当）
男女共同参画センター長
植木 俊哉

回答上の注意

・ご回答は以下のウェブサイトから入力して下さい（回答期間：2月1日（水）～2月12日（日））。

<https://goo.gl/forms/UYqw1SQ5rHuV8GKM2>

・特に指示のない限り、回答は選択肢から1つを選んで回答してください。
・「その他」等の選択肢では、具体的な内容を記入してください。
・調査結果は、回答者が特定されないように統計処理を行った上で公表いたします。自由記載欄については、個人を特定できない形で男女共同参画委員会報告書等に転記させていただくことがあります。ご了承ください。

アンケート対象者は以下の方々です。

本学教職員のうち以下に掲げる者（非常勤を含む）

教授、准教授、講師、助教、助手
特任教授（教育・研究）、特任准教授（教育・研究）、特任講師（教育・研究）、特任助教（研究）、助手
その他、研究を主な職務とする職員





参考資料

1. 平成28年度杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業資料

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

杜の都女性研究者エンパワーメント推進事業 (東北大学)

里見 進 総長
大隅 典子 総長特別補佐(男女共同参画担当)
男女共同参画推進センター副センター長
医学系研究科附属創生応用医学研究センター長
医学系研究科教授
田中 真美 男女共同参画推進センター副センター長
医工学研究科・工学研究科教授

平成28年7月7日

東北大学の現状

東北大学グローバルビジョン(見聞ビジョン)

東北大学の強み・特色・社会的役割を踏まえ、あるべき姿と柱となる旗幟をとりまとめたアクションプラン

ワールドクラスへの挑戦

Vision 1 教育 グローバルリーダーの育成 グローバルな知性環境の整備 学生支援の充実・強化	Vision 2 研究 最先端・女性研究者の育成 世界を牽引する最先端学域の研究 国際的人事制度の構築	Vision 3 産学連携 産学アクションの推進 産学プロジェクトの創設 産学連携・地域貢献	Vision 4 産学連携 産学アクションの推進 産学プロジェクトの創設 産学連携・地域貢献
Vision 5 社会連携 知識コミュニティの創出 新たなネットワークの構築 グローバルネットワークの強化	Vision 6 オープンキャンパス 知能コミュニティの創出 新たなネットワークの構築 グローバルネットワークの強化	Vision 7 大学経営 グローバル人材の育成 男女共同参画の推進 女性教員比率の向上 女性リーダーシップによる産学連携 環境の強化	

文部科学省補助費や特別経費により、女性研究者支援を策定
→ 一貫した女性教員の増加はあったが、**要する経費が必要** (女性教員比率(再掲)%) 7.9% 11.4%

本事業で実現すること
→ 第三期中期計画・中期計画 (H28-H32)
→ **女性教員比率向上を目標とした採用等の取組み強化**

本事業で実現すること
→ 研究とライフイベントの両立
→ 女性の研究力向上を支援した
→ リーダー育成

世界から尊敬される「三十傑大学」の一員を目指し、
ダイバーシティに導いた研究環境を構築

これまでの取組と成果

2009~2013
科学技術人材養成補助会
杜の都ジャンプアップ
事業 for 2013

「東北大学における男女共同参画推進のための行動指針」
策定 (2013) P.28参照

東北大学女子学生入学
100周年記念シンポジウム
にて経費より発表

2006~2008
科学技術振興機構
杜の都女性科学者
ハードリング支援事業

研究支援経費事業、ベビーシッター
利用等補助による産学連携
・産学所設置、産学連携ルーム、
知能知識教育センター設置等
・東北大学サイエンス・エンジェル
制度による産学連携

女性教員在籍率は
7.9% (H10)
→11.4% (H28)
に増加!

ただし、国立大学の
平均に及ばず

出産・育児・介護等
による影響を最低限
に抑えた研究環境
の実現

産学連携
Tahoku
Leading
Women's
Innovative
Life
Project

産工連携の女性教員を積極的に
採用するシステム構築
・産学メンター制、能力アップ
セミナーによる産学連携
・研究リーダー育成

東北大学
産学
共同
推進
委員会
設立 (2002~)

東北大学
産学
共同
推進
委員会
設立 (2001~)

女子学生入学
(1913)

本事業の目標

中期計画にも明記!

目標 1	女性教員在籍率19%を目指す。
目標 2	新規採用教員に占める女性比率30%を目指す。
目標 3	女性上位職教員の積極的採用、若手研究者の育成により教授・准教授の女性比率10%を目指す。
目標 4	女性役員等を育成する体制を整え、役員等での女性比率10%を目指す。
目標 5	女子学生の研究者志望への意識向上および男性も含めた人的ダイバーシティへの意識醸成を行う。

取組内容

ダイバーシティ研究環境整備のための取組 短時間勤務制度、保育所整備、研究支援委員、ベビーシッター利用料等補助、サイエンス・エンジェル制度、TUMUG Café、ニュースレター発行等 NEW 代替教員等雇用経費支援検討 ・外国人研究者支援体制の構築 ・テレワーク制度導入検討等	女性研究者の研究力向上およびリーダー育成のための取組 研究力向上セミナー、研究発表・交流会、スタートアップ研究費支援、研究スキルアップ経費等 NEW 女性研究者のためのURAによる研究費獲得支援 ・研究遂行支援 ・優秀な研究者の顕彰 ・ポスドク、博士課程も対象としたセミナー等	女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組 シンポジウムや部局FDによる意識醸成、部局での採用、昇進の工夫、複数メンター制等 NEW 全学ポストの設置等による採用 ・募集・選考過程の見直し ・マネジメントセミナー ・研究成果の広報、研究業績顕彰等
---	---	---

取組内容

ダイバーシティ研究環境整備のための取組 短時間勤務制度、保育所整備、研究支援委員、ベビーシッター利用料等補助、サイエンス・エンジェル制度、TUMUG Café、ニュースレター発行等 NEW 代替教員等雇用経費支援検討 ・外国人研究者支援体制の構築 ・テレワーク制度導入検討等	女性研究者の研究力向上およびリーダー育成のための取組 研究力向上セミナー、研究発表・交流会、スタートアップ研究費支援、研究スキルアップ経費等 NEW 女性研究者のためのURAによる研究費獲得支援 ・研究遂行支援 ・優秀な研究者の顕彰 ・ポスドク、博士課程も対象としたセミナー等	女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組 シンポジウムや部局FDによる意識醸成、部局での採用、昇進の工夫、複数メンター制等 NEW 全学ポストの設置等による採用 ・募集・選考過程の見直し ・マネジメントセミナー ・研究成果の広報、研究業績顕彰等
---	---	---

ダイバーシティ研究環境整備のための取組

学内3つ目の保育園の整備
学内3つ目の保育園整備準備中の新築園舎キャンパス(完成予定)

テレワーク制度導入の検討

- 子供の看護や親族の介護など予測できない事象の発生時にも仕事との両立が可能
- 出張、学会出席時等、研究室外においてもデータアクセスを可能にすることにより、弾力的な研究環境を整備

学内3つ目の保育園の整備

代替教員等雇用経費支援の検討

- 研究者のニーズに応じて、育児休業・介護休業を容易しやすい環境を整備するとともに、各課休業からの早期復帰を可能とする環境を整備

外国人研究者支援体制の構築

- ホームページの英語化
- 学生や地域住民を活用したサポーター制度の導入検討
- …本事業経費で実施

世界中の取組

- 短時間勤務制度
- 研究支援委員
- ペビニシッター利用料等補助
- 保育施設整備
- サイエンス・エンジェル制度
- ニュースレター発行

世界を牽引する最高水準の研究活動が様々なライフイベントにより滞ることがないように環境整備を行う

次世代の女性研究者育成

孤立しがちな女子大学院生を多面的にサポートすることにより、研究者を目指す意欲を促進し、進学率を向上させる。

ALiCE (女子大学研究員育成支援委員会)
研究科・研究所等
SeiGN (東北大学女子学生研究員育成ネットワーク)
全学教育科目「ジェンダーと人間社会」

SA OOGを始めとする卒業生
SA自身も研究者として成長!
ロールモデル

東北大学 サイエンス・エンジェル (2014年度) 2005年度

充実・拡大

SA:自然科学系の女子大学院生が科学イベント、出張セミナーの実施を通して、中・高校生等に対しロールモデルとしての役割を果たすと同時に、大学院生同士も交流を通して自己研鑽を図る制度

各研究科・研究所等の取組

女性のチャレンジ支援賞受賞!

ALiCE 女性が働くマインドである工学系分野において、工学を志す女子学生、女性研究員の活躍を、男女共同参画意識醸成のための多様な活動を促進し、賞状等の研究費に対する支援委員の派遣やペビニシッター利用料等補助の助成支援を実施。

また、静養室(男女)の整備や、学会や一般公開イベントへの参加に一部経費を補助として利用できる制度も実施。

ALiCE-工学系女性研究員育成支援委員会

各研究科・研究所等独自の顕彰制度

SeiGN 「七層賞」 NANASE Award

<2015年創設> 優秀な女子大学院生が自費で海外へ、静かなることに研究者としての進歩を志すことを奨励し、医学・工学等の分野で活躍する女性リーダー育成の一環を担うことを目的として、七層賞(東北大学大学院理学系研究科女子大学大学院生奨励賞)を創設。SeiGN-産学連携型研究員育成ネットワーク

青森理学院「黒田チカ賞」 The Kuroda Chika Award

<1999年創設> 理学系研究科及び生命科学研究科の博士後期課程に在籍する女子学生のうち、東北大学研究業績を上げた者を選び顕彰。化学分野において女性で最初の博士号を取得した黒田チカ博士を記念し、理学分野における女性研究員を育成することを目的としている。

女性のチャレンジ支援賞(内閣府)受賞

ALiCEスタッフ 藤井 真由 (工学研究科専攻員)
ALiCE委員 田中 真美 (医学系研究科/工学研究科 助教授)
ALiCE委員長 長嶋 穂子 (工学研究科専攻員 准教授)

取組内容

ダイバーシティ研究環境整備のための取組

短時間勤務制度、保育所整備、研究支援委員、ペビニシッター利用料等補助、サイエンス・エンジェル制度、TUMUG Café、ニュースレター発行等

女性研究者の研究力向上およびリーダー育成のための取組

研究力向上セミナー、研究発表・交流会、スタートアップ研究費支援、研究スキルアップ経費等

女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組

シンポジウムや部局FDによる意識醸成、部局での採用・昇進の工夫、複数メンター制等

NEW 代替教員等雇用経費支援検討
NEW 外国人研究者支援体制の構築
NEW テレワーク制度導入検討等

NEW 女性研究者のためのURAによる研究費獲得支援
NEW 研究遂行支援
NEW 優秀な研究者の顕彰
NEW ポスドク、博士課程も対象としたセミナー等

NEW 全学ポストの設置等による採用
NEW 募集・選考過程の見直し
NEW マネジメントセミナー
NEW 研究成果の広報、研究業績顕彰等

女性研究者の研究力向上のための取組とそれを通じたリーダー育成のための取組

女性研究者 研究力UP!

研究科・研究所等
研究推進本部
産学連携機構

連携

男女共同参画推進センター (女性研究者のためのURAを配置)

自然科学系の女性研究者に特化した研究力養成及び研究遂行支援

実務中の取組

- 研究力アップセミナー (外部員会開催、英語論文、プレゼン等)
- 研究スキルアップ経費 (海外滞航費、英語論文校閲費補助等)
- TUMUG Forum (女性研究者による研究・交流会)

研究力養成支援
URAによる研究費獲得支援
研究プロジェクト遂行支援

取組内容

ダイバーシティ研究環境整備のための取組

短時間勤務制度、保育所整備、研究支援委員、ペビニシッター利用料等補助、サイエンス・エンジェル制度、TUMUG Café、ニュースレター発行等

女性研究者の研究力向上およびリーダー育成のための取組

研究力向上セミナー、研究発表・交流会、スタートアップ研究費支援、研究スキルアップ経費等

女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組

シンポジウムや部局FDによる意識醸成、部局での採用・昇進の工夫、複数メンター制等

NEW 代替教員等雇用経費支援検討
NEW 外国人研究者支援体制の構築
NEW テレワーク制度導入検討等

NEW 女性研究者のためのURAによる研究費獲得支援
NEW 研究遂行支援
NEW 優秀な研究者の顕彰
NEW ポスドク、博士課程も対象としたセミナー等

NEW 全学ポストの設置等による採用
NEW 募集・選考過程の見直し
NEW マネジメントセミナー
NEW 研究成果の広報、研究業績顕彰等

女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組

全学ポストの設置等 積極的採用の取組

管理職セミナー等による意識啓発活動

女性研究者のためのマネジメント研修

募集・選考過程見直し

研究費支援の拡充

女性研究者の研究成果を顕彰

- フォローアップ研究費
- 女性をリーダーとする研究プロジェクトに研究費を補助
- …本事業経費で実施

実務中の取組

- シンポジウムや部局FDによる意識啓発活動
- 部局単位での採用・昇進の工夫
- 招聘フェローと部局メンターによる複数メンター制
- スタートアップ研究費

女性研究者の上位職昇進を積極的に推進

本取組による女性研究者エンパワーメント

世界トップリーダーへ!

教授
准教授
講師
助教
ポスドク等
女子大学院生

ワークライフバランスも意識

メンタリング
研究力向上セミナー
ロールモデルの提示

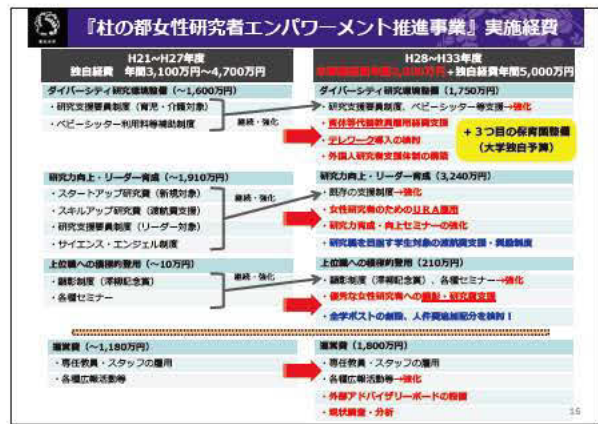
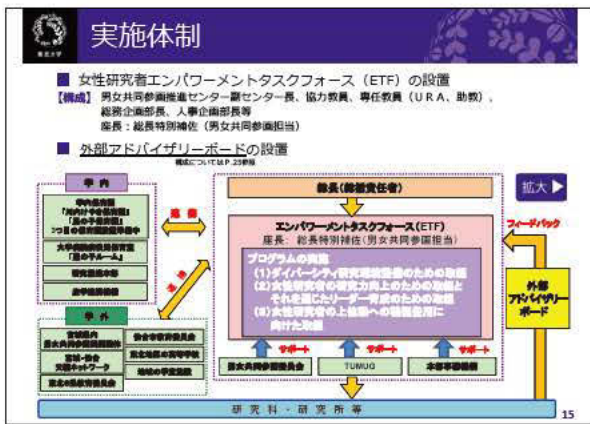
現在活躍している女性教授
研究遂行支援
研究費獲得支援
助教

マネジメント研修
研究遂行支援
研究費獲得支援
助教

上位職への採用と登用
URAによる研究力向上と研究遂行支援

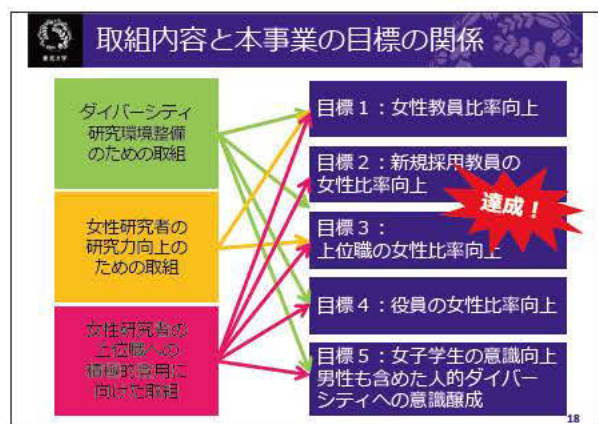
ライフイベントが障害にならない研究環境整備

各キャリア段階にあった多様な取組により女性研究者の研究業績向上および女性リーダー育成に寄与



目標達成に向けたスケジュール

	H28	H29	H30	H31	H32	H33
ダイバーシティ研究環境整備のための取組	取組の検討 「おんがら」の取組	支援策の実施	定期的な評価活動・取組への反映	定期的な評価活動・取組への反映	定期的な評価活動・取組への反映	評価・改善
女性研究者の研究力向上のための取組	URA配置	女性研究者のためのURAによる研究支援	研究力育成、向上のためのセミナー等開催	研究業績の顕彰および研究費支援	研究業績の顕彰および研究費支援	評価・改善
女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組	取組の検討	採用、昇任促進施策の実施	昇進啓発活動	昇進啓発活動	昇進啓発活動	評価・改善
			メンタリング支援			



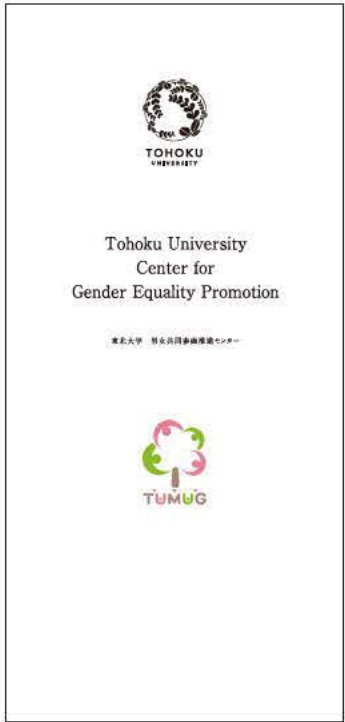
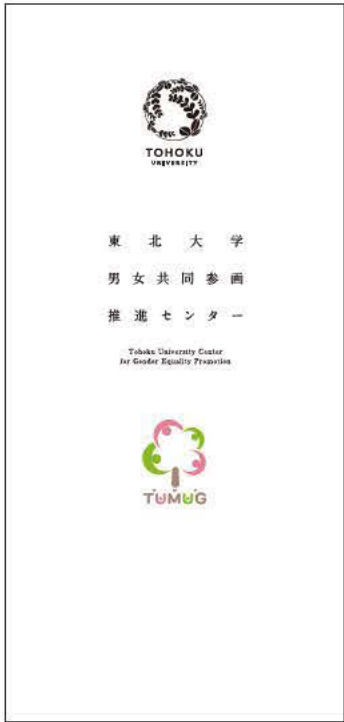
【 2. 平成28年度社の都女性研究者エンパワーメント推進事業リーフレット 】



【 3. 学生向けリーフレット「研究者をめざして」 】



【 4. 東北大学男女共同参画推進センターリーフレット 】



6. 東北大学女子学生入学百周年記念事業報告書



7. 東北大学サイエンス・エンジェル活動報告 2015、2016



8. TUMUG支援事業一覧

平成29年度TUMUG支援事業募集実施プログラム一覧

項目	プログラム名	内容	対象者
1 両立支援	研究支援要員 (A型・B型)	A型:研究支援要員雇用のために必要な人件費の補助(上限100万円) B型:大学から事務補佐員を派遣(週1~2日)	出産・育児・介護等を行う教員・技術職員
2 両立支援	ベビーシッター利用料等補助	研究、講義、出張時のベビーシッター利用料等の補助(子供1人あたり上限5万円/半期)	育児を行う教員、技術職員、ポスドク、博士学生等
3 女性リーダー育成	リーダー研究支援要員	大学から事務補佐員を派遣(週1~2日)	国の審議会委員等の要職に就く女性教員・技術職員
4 女性リーダー育成	スタートアップ研究費	1年目100万円、2年目50万円の研究費を支援	新規採用の女性教員(助教以上)
5 女性リーダー育成	研究スキルアップ経費	会議・シンポジウム等の旅費支援 開催地が海外:上限30万円、 国内:上限15万円	女性教員(准教授、講師、助教)
6 次世代育成	東北大学サイエンス・エンジェル	高校等での出張セミナー、オープンキャンパス、科学イベント等の企画・実施	自然科学系部局に所属する大学院女子学生
7 次世代育成	仙台Iゾーンクラブ 東北大学大学院女子学生海外渡航支援	海外で開催される会議・シンポジウム等の旅費支援(上限15万円)	大学院女子学生

※ 詳細は男女共同参画推進センターHPをご参照ください。URL: www.tumug.tohoku.ac.jp

9. サイエンス・エンジェルのご案内



おもしろそう! たのしそう! カッコいい!
好奇心のタネを届けます。

サイエンス・エンジェルの活動

出張セミナー
15高校などの学校で出張セミナーを開催します。研究の様子を映像で見せ、体験談をお話します。

オープンキャンパス
オープンキャンパスなどの学内イベントで、理系学生に興味を持つ女子高生の疑問・悩み・相談にお答えします。

サイエンス・エンジェルとは

サイエンス・エンジェルとは、東北大学理学部・工学部・農学部・経済学部に所属する学生が中心となり、東北大学の教員・職員・学生と連携して、社会貢献活動を行っています。

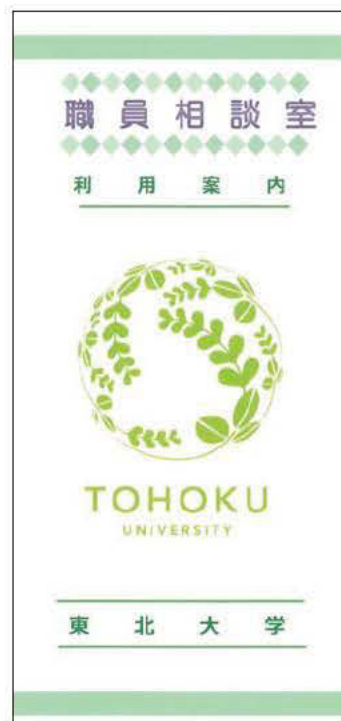
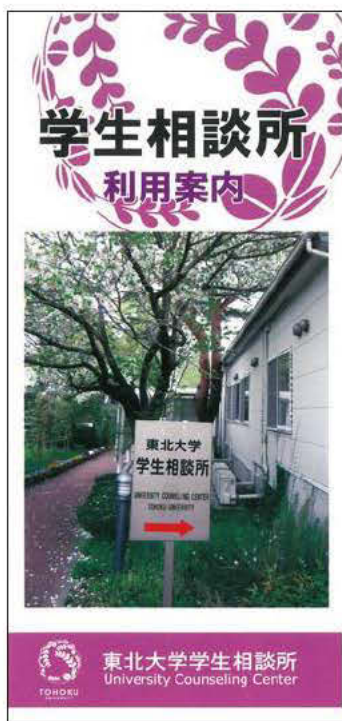
イベント
科学館や博物館など外部施設との協力でイベントを開催します。科学を身近に感じてもらえる企画で、市民のみならずコミュニケーションを図ります。

出張セミナー/科学イベントのお申し込み方法

件名:【SA】出張セミナー依頼希望
※ 依頼先: 理学部・工学部・農学部・経済学部
※ 依頼先: 理学部・工学部・農学部・経済学部
※ 依頼先: 理学部・工学部・農学部・経済学部

東北大学 男女共同参画推進センター
E-mail: tumug@morihime.tohoku.ac.jp

10. 学生・職員相談所利用案内



11. 男女共同参画推進基金





東北大学男女共同参画推進センター
Tohoku University Center for Gender Equality Promotion

〒980-0812 宮城県仙台市青葉区片平2-1-1
電話 022-217-6092